

文京区男女平等参画に関する区民調査

【速報概要版】

調査の概要

調査方法と回収状況

- (1) 調査地域：文京区全域
- (2) 調査対象：区内在住の満 18 歳以上の 2,500 人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法：【配布】 郵送
 【回収】 郵送又は回答用ウェブサイト
- (5) 調査期間：令和 2 年 9 月 4 日（金）～9 月 23 日（水）
- (6) 調査内容
 - 1 家庭生活について
 - 2 保育・教育について
 - 3 男女平等への関心と意識について
 - 4 就労・職場について
 - 5 女性の活躍について
 - 6 家庭生活と社会生活の両立について
 - 7 地域活動、社会活動への参画について
 - 8 政策決定過程への女性の参画について
 - 9 健康について
 - 10 人権問題について
 - 11 性の多様性について
 - 12 暴力の防止について
 - 13 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて
 - 14 性別・年齢等

(7) 回収結果

方法	配布数（件） 【A】	有効回収数（件） 【B】	白票・無効票（件） 【C】	有効回収率（%） 【B/A】
全体	2,500	1,031	2	41.3
郵送	—	662	2	26.5
WEB	—	369	0	14.8

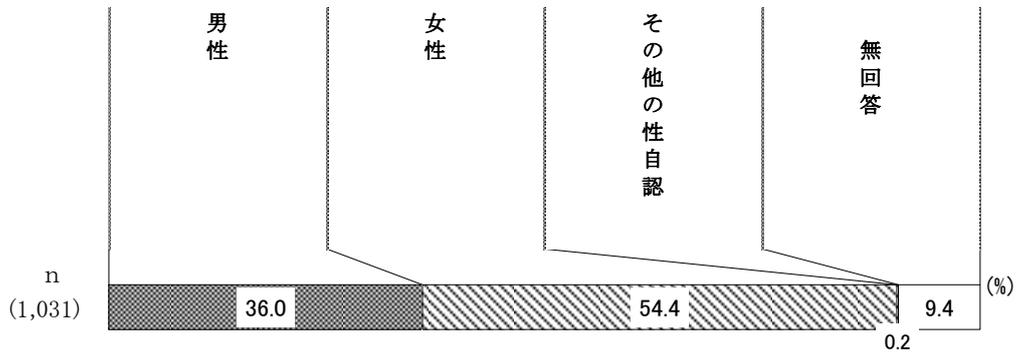
※有効回収率は、小数点第 2 位以下を四捨五入して算出し、小数点第 1 位までを表示しています。

調査結果一覧（抜粋）

回答者の属性

■ < F 1 > 性別

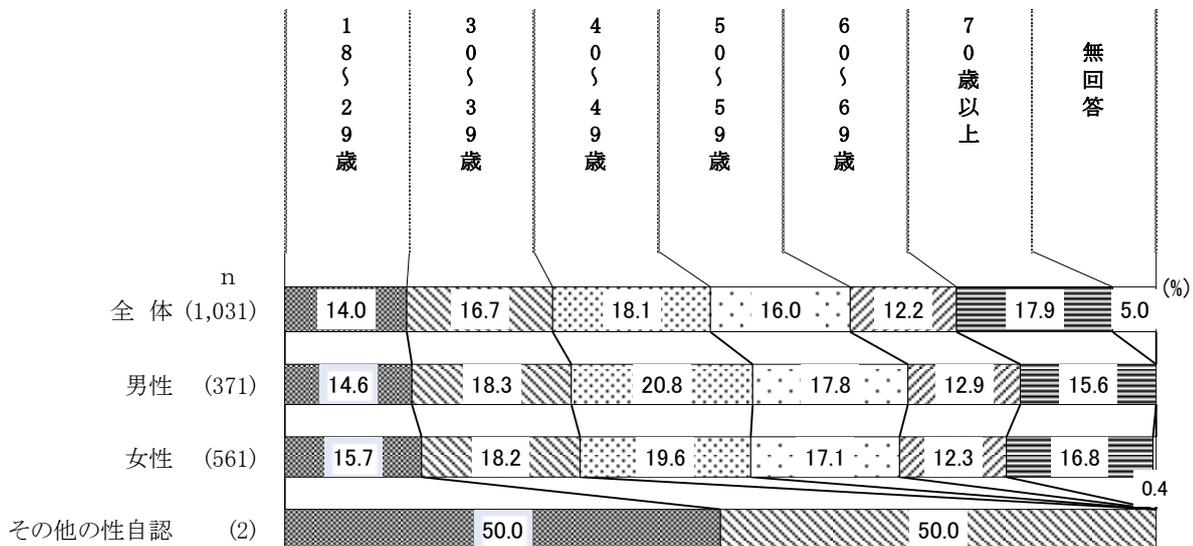
性別は「女性」が 54.4%、「男性」が 36.0%です。



■ < F 2 > 年齢

全体でみると、年齢は、「40～49 歳」が 18.1%と最も高く、次いで、「70 歳以上」が 17.9%と高くなっています。

性別間では、大きな差はありません。

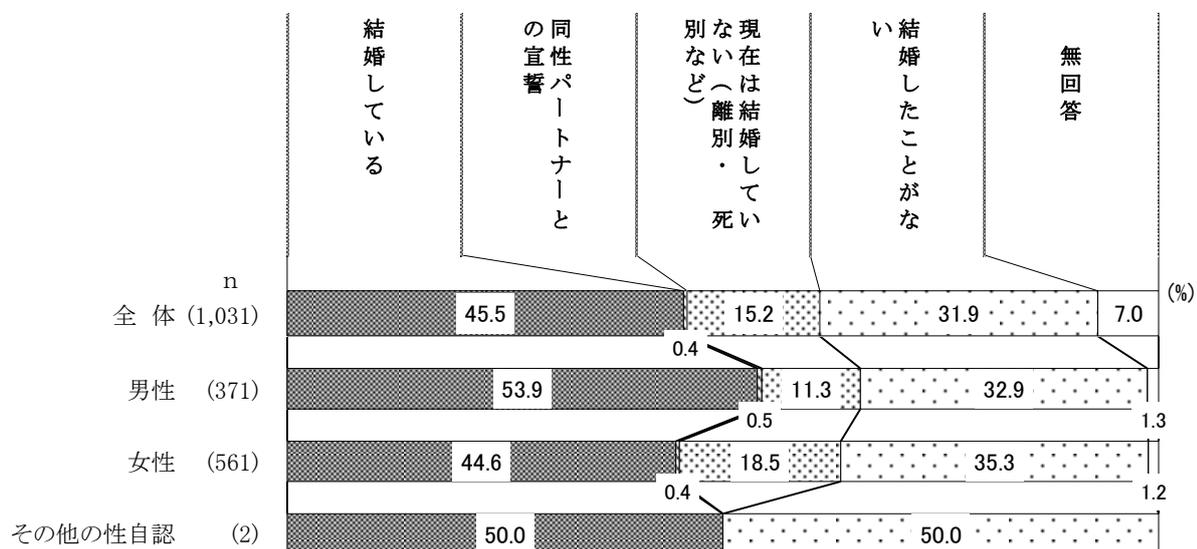


※性別無回答者：97 人

■ < F 4 > 婚姻状況（事実婚を含む）

全体でみると、婚姻状況は「結婚している」が45.5%と最も高く、次いで、「結婚したことがない」が31.9%となっています。

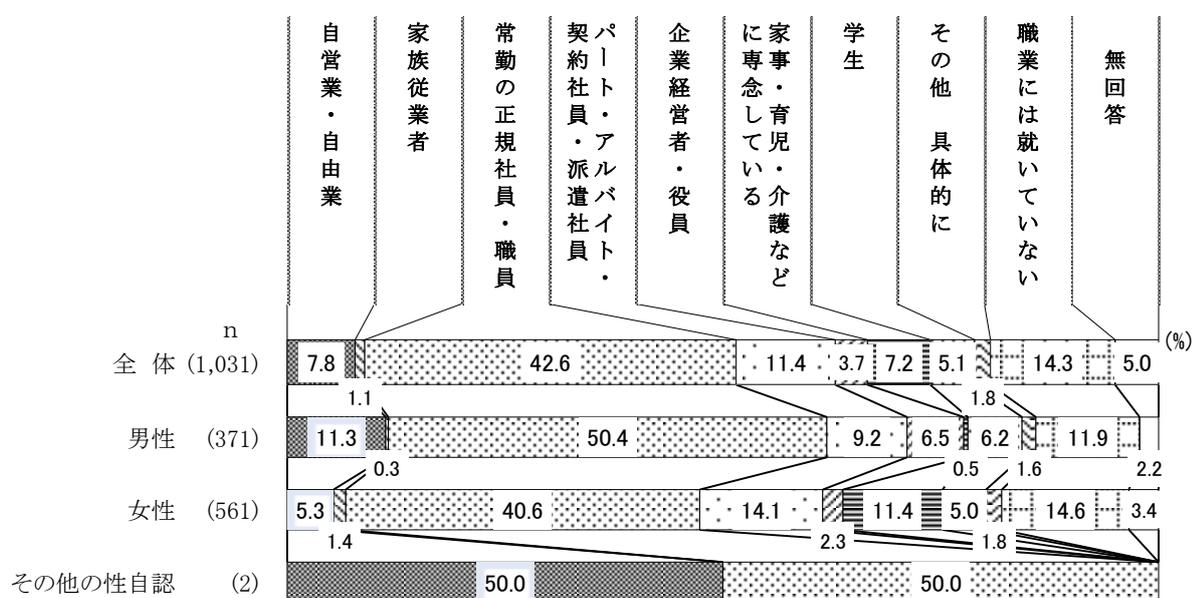
性別でみると、「結婚している」では、女性より男性の方が9.3ポイント高くなっています。



※性別無回答者：97人

■ < 問 8 > 就労状況

就労状況は、男女ともに「常勤の正規社員・職員」が最も高くなっています。次いで、「職業には就いていない」が高く、女性では「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」が14.1%、男性では「自営業・自由業」が11.3%となっています。



※性別無回答者：97人

1 家庭生活について

まとめ

「男は仕事、女は家庭」という考えについて、男性は8割弱、女性は8割強の方が反対をしています。しかし、家庭生活における役割分担をみると、主に自分が行っているという回答は地域活動を除く全ての項目で女性が上回っており、現実では家事・育児・介護等は女性の方が多く担っている状況にあります。新型コロナウイルス感染拡大以降の家事への影響についても、家事の量や負担感は、ともに女性の方が増えたと感じており、固定的性別役割分担の解消に向けて施策や取組を進めていく必要があります。

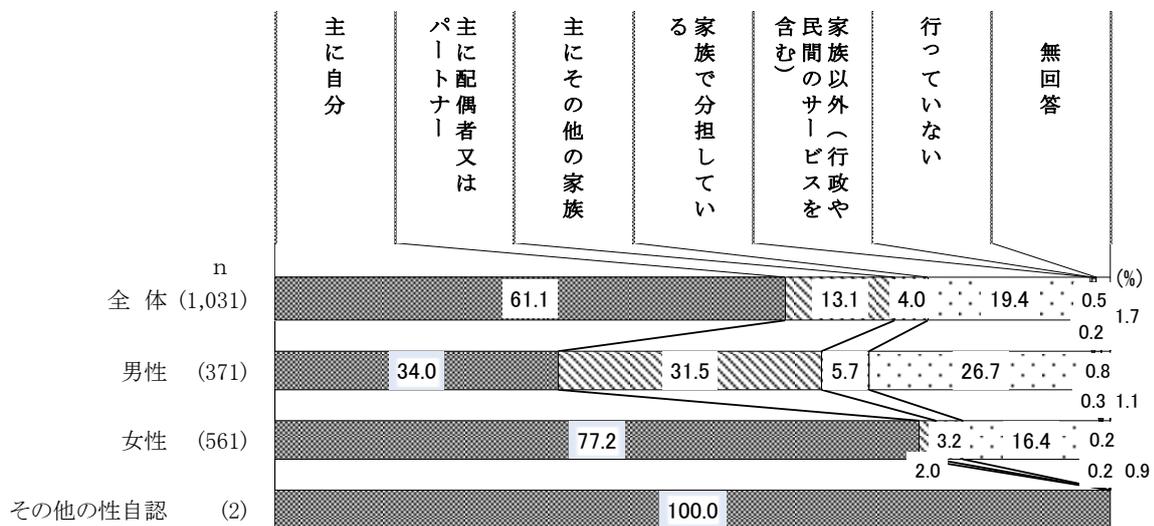
■ <問1> あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行っていますか。

(ア～オのそれぞれについて、当てはまる「1～6」に○を1つ)

炊事・洗濯・掃除などの家事は、女性の77.2%が「主に自分」と回答しているのに対して、男性回答者では「主に配偶者又はパートナー」が31.5%、「家族で分担している」が26.7%となっています。

育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加は、女性は「主に自分」と回答しているのに対し、男性は「主に配偶者又はパートナー」と「家族で分担している」の割合が高くなっています。

ア. 炊事・洗濯・掃除などの家事



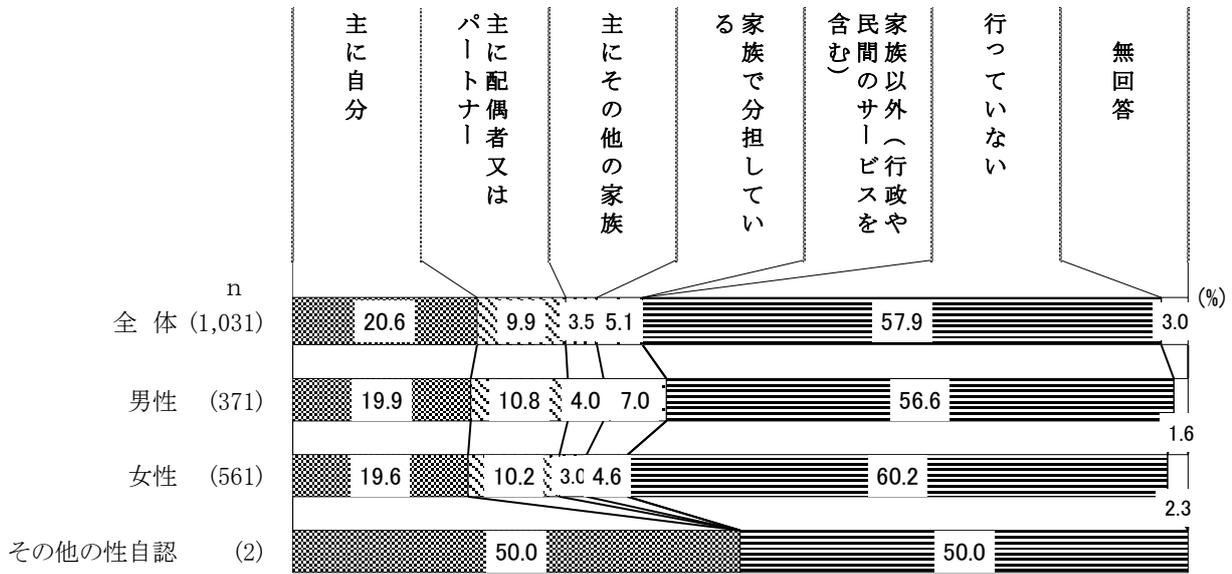
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問1. 家庭における役割分担「ア. 炊事・洗濯・掃除などの家事」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	61.1	13.1	4.0	19.4	0.2	0.5	1.7
前回調査	100.0	59.5	18.1	3.0	16.4	0.6	0.8	1.7

イ. 町会・自治会などの地域活動



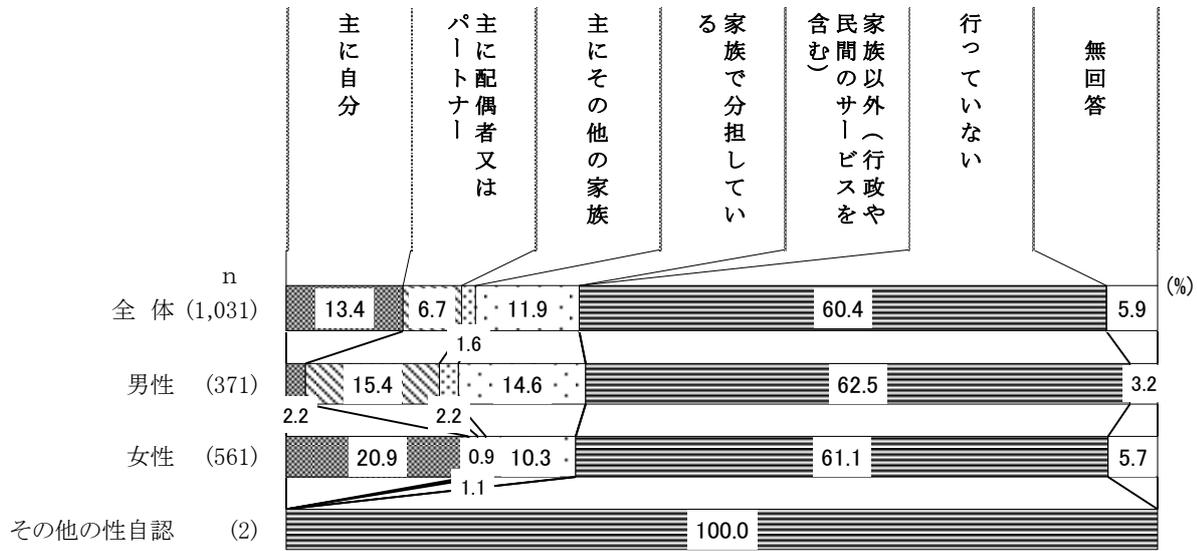
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問1. 家庭における役割分担「イ. 町会・自治会などの地域活動」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	20.6	9.9	3.5	5.1	0.0	57.9	3.0
前回調査	100.0	22.6	8.4	3.3	5.7	0.6	55.1	4.4

ウ. 育児や子どものしつけ



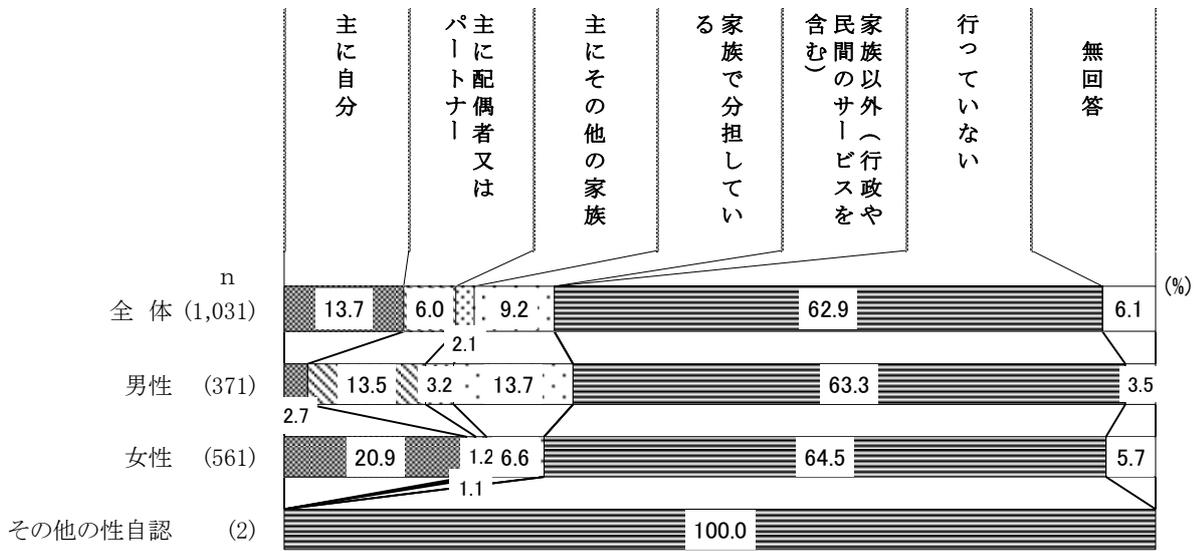
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問1. 家庭における役割分担「ウ. 育児や子どものしつけ」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	13.4	6.7	1.6	11.9	0.0	60.4	5.9
前回調査	100.0	15.8	6.4	2.0	13.8	0.0	53.4	8.5

工. 子どもの学校行事への参加



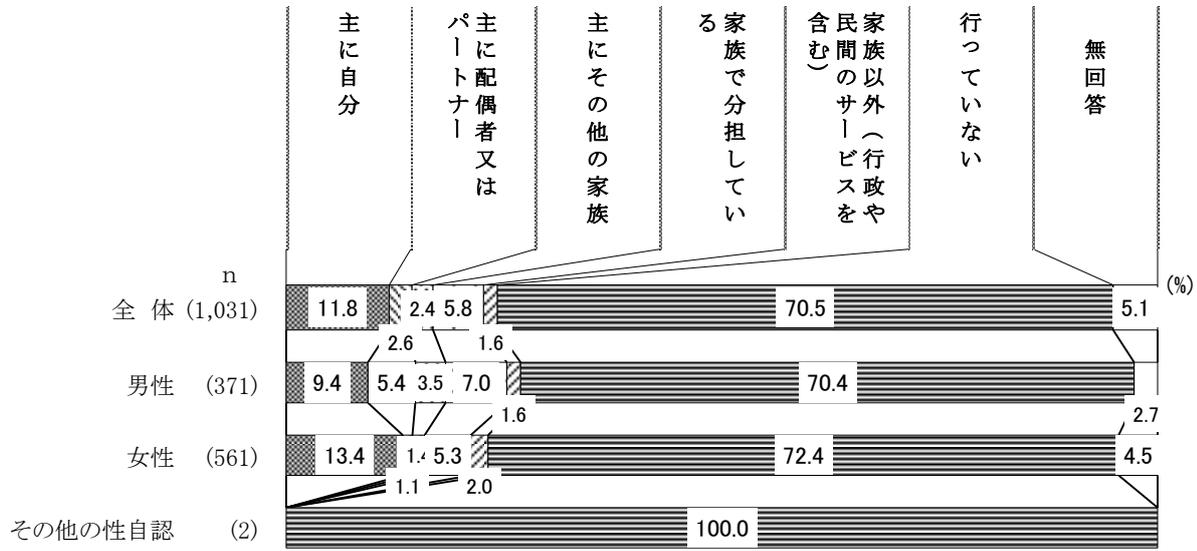
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問1. 家庭における役割分担「工. 子どもの学校行事への参加」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行っていない	無回答
今回調査	100.0	13.7	6.0	2.1	9.2	0.0	62.9	6.1
前回調査	100.0	16.0	6.6	1.7	9.1	0.0	58.6	8.0

オ. 親や家族の介護



※性別無回答者：97人

< 前回調査との比較 >

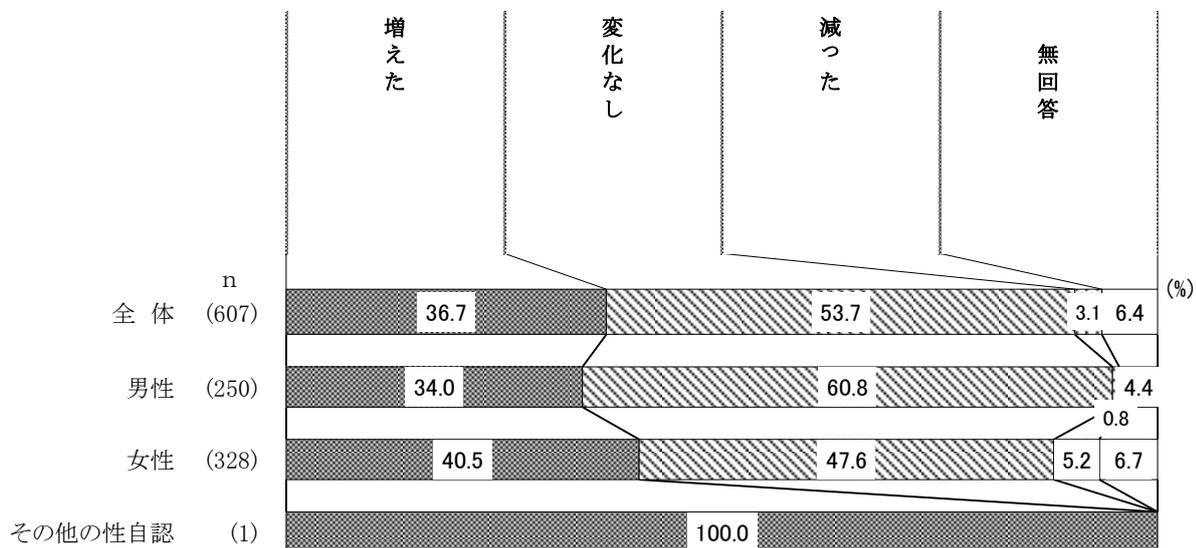
問1. 家庭における役割分担「オ. 親や家族の介護」

	全体	主に自分	主に配偶者	主にその他	家族で分担	家族以外	行ってない	無回答
今回調査	100.0	11.8	2.6	2.4	5.8	1.6	70.5	5.1
前回調査	100.0	11.9	3.0	2.2	5.6	1.3	69.5	6.5

■ <問3> 【現在、2人以上でお住まいの方のみご回答ください】

新型コロナウイルス感染拡大以降、あなたの家事の量に変化はありましたか。(それぞれ○は1つ)

「増えた」の中では、女性が40.5%、男が34.0%となっています。

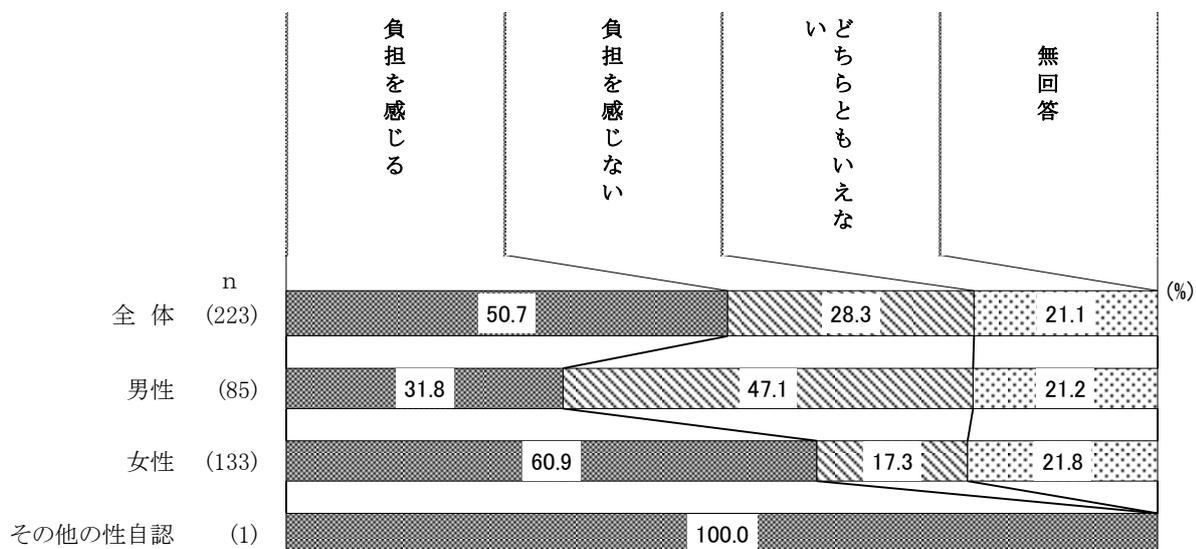


※性別無回答者：28人

■ <問3-2> 【家事の量が増えた方（問3で1を選んだ方）のみご回答ください】

自身の家事が増えたことについて負担を感じますか。

「負担を感じる」の中では、女性が60.9%、男性が31.8%となっています。



※性別無回答者：4人

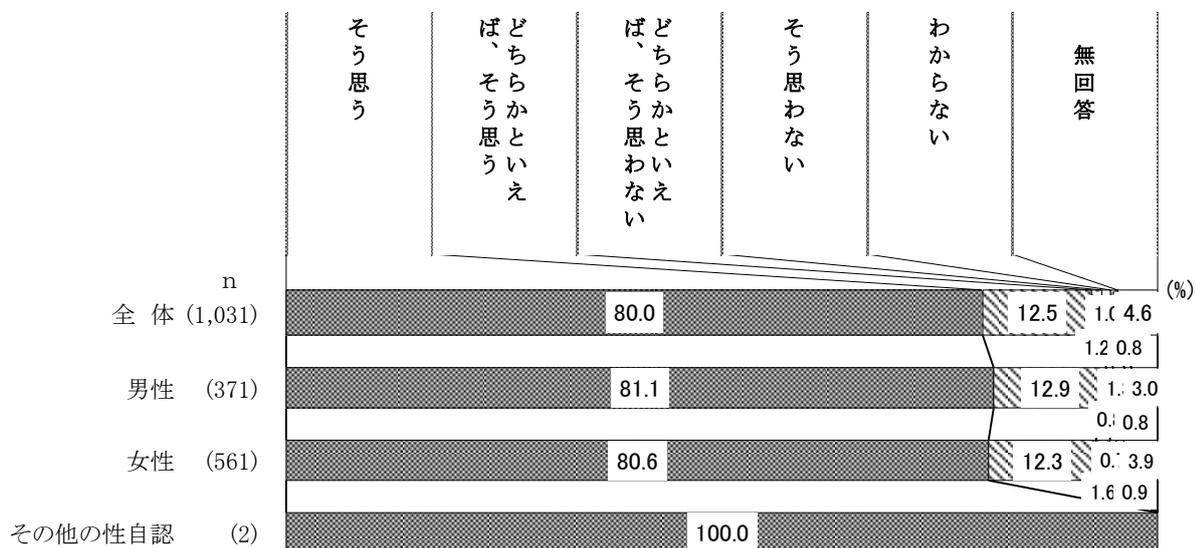
■ <問4>結婚や出産、男女の役割について、次にあげる（ア）～（キ）の考え方を、あなたはどのように思いますか。（ア～キのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ）

全体を通して性別間で大きな差はありませんが、「同性同士のカップルを尊重する」について「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の合計は、男性より女性の方が15.2ポイント高くなっています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」について『そう思う』は、女性より男性の方が4.3ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「結婚する、しないは個人の自由である」と「結婚生活に問題があれば離婚してもよい」では、「そう思う」の回答が10ポイント以上増加しています。

ア. 結婚する、しないは個人の自由である



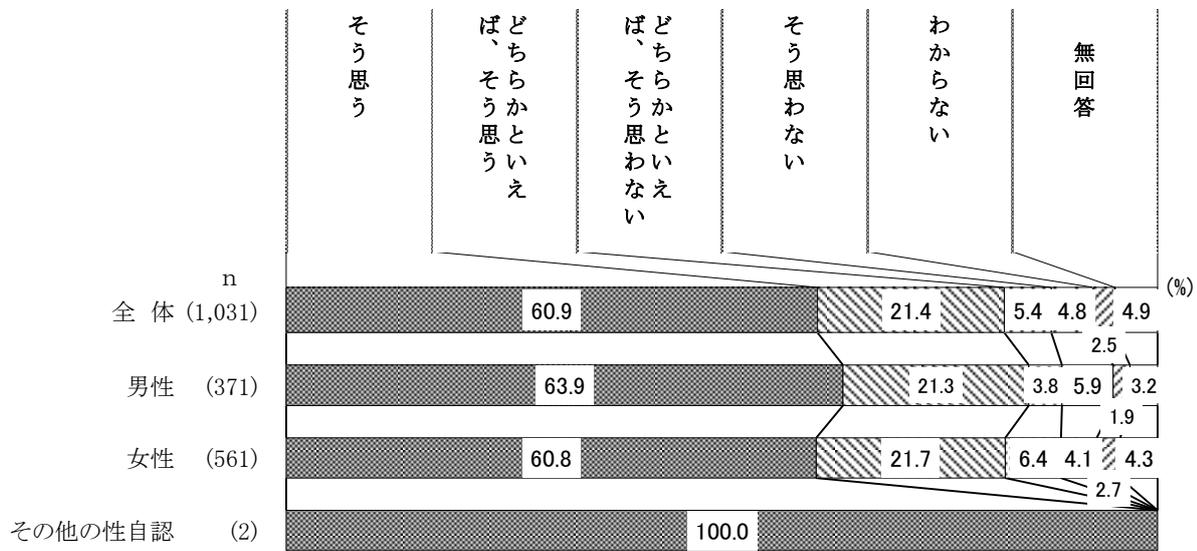
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問4. 考え方「ア. 結婚する、しないは個人の自由である」

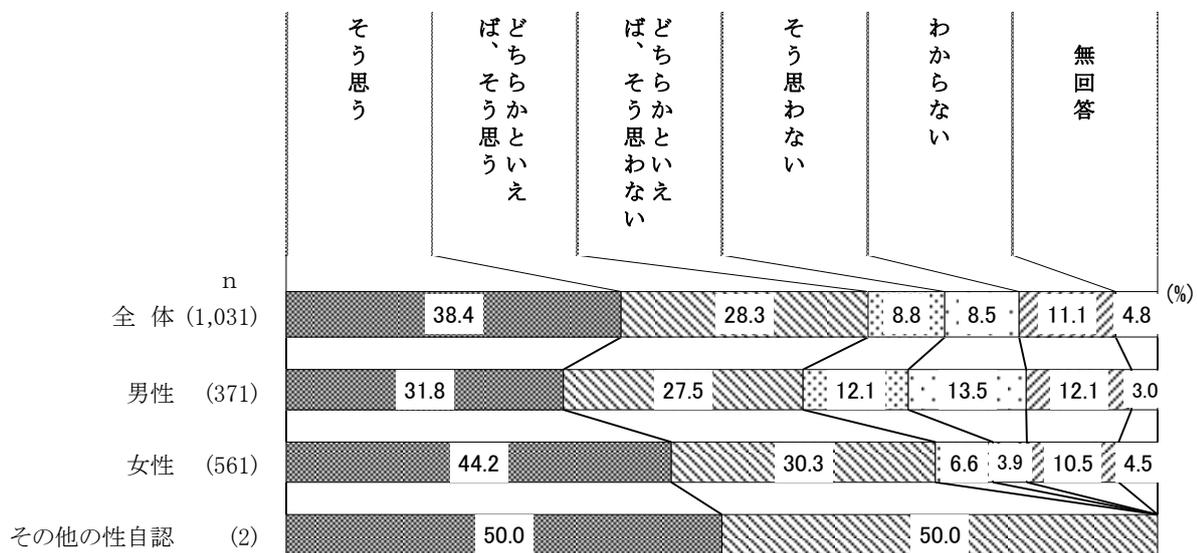
	全体	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
今回調査	100.0	80.0	12.5	1.2	1.0	0.8	4.6
前回調査	100.0	69.4	20.9	3.5	2.4	1.1	2.7

イ. 結婚に国籍の違いは関係ない



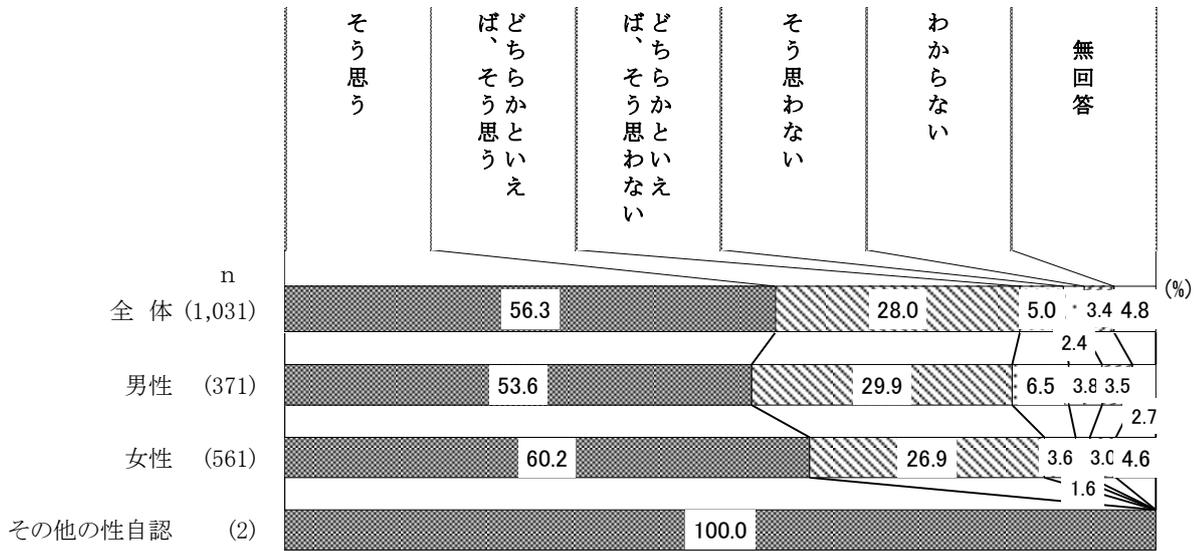
※性別無回答者：97人

ウ. 同性同士のカップルを尊重する



※性別無回答者：97人

工. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい



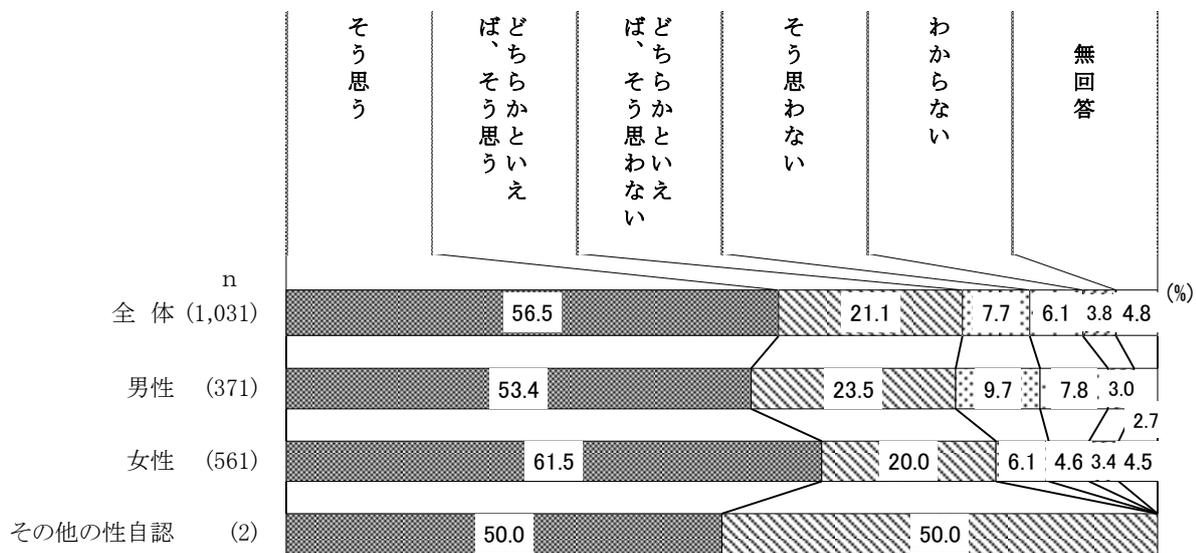
※性別無回答者：97人

< 前回調査との比較 >

問4. 考え方「工. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	わからない	無回答
今回調査	100.0	56.3	28.0	5.0	2.4	3.4	4.8
前回調査	100.0	44.2	28.8	9.3	5.9	8.2	3.5

オ.「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ



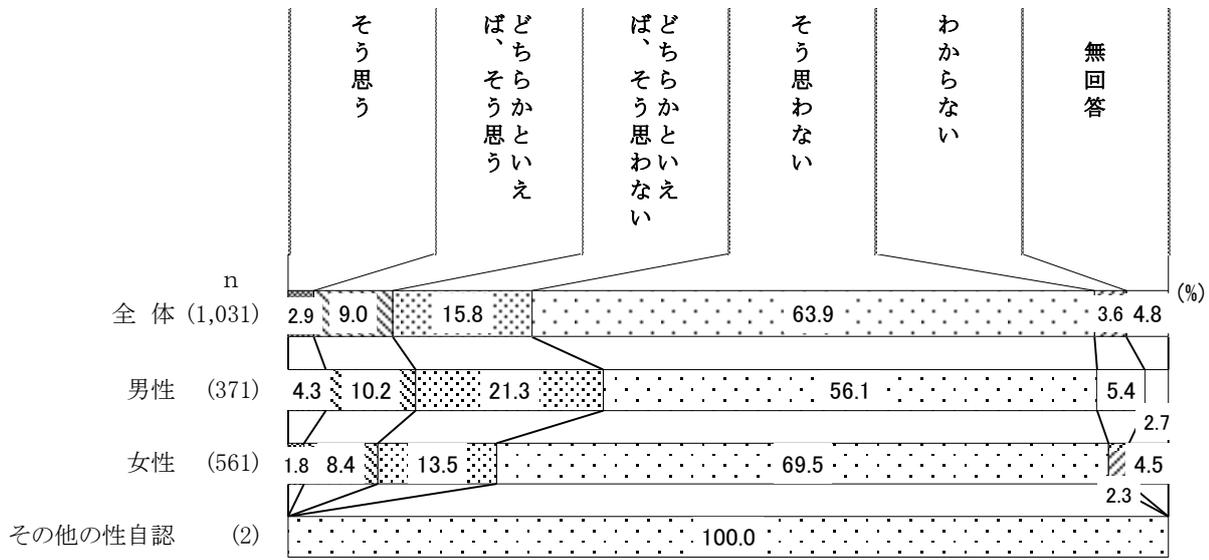
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問4. 考え方「オ.「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	わからない	無回答
今回調査	100.0	56.5	21.1	7.7	6.1	3.8	4.8
前回調査	100.0	69.4	20.9	3.5	2.4	1.1	2.7

力。「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する



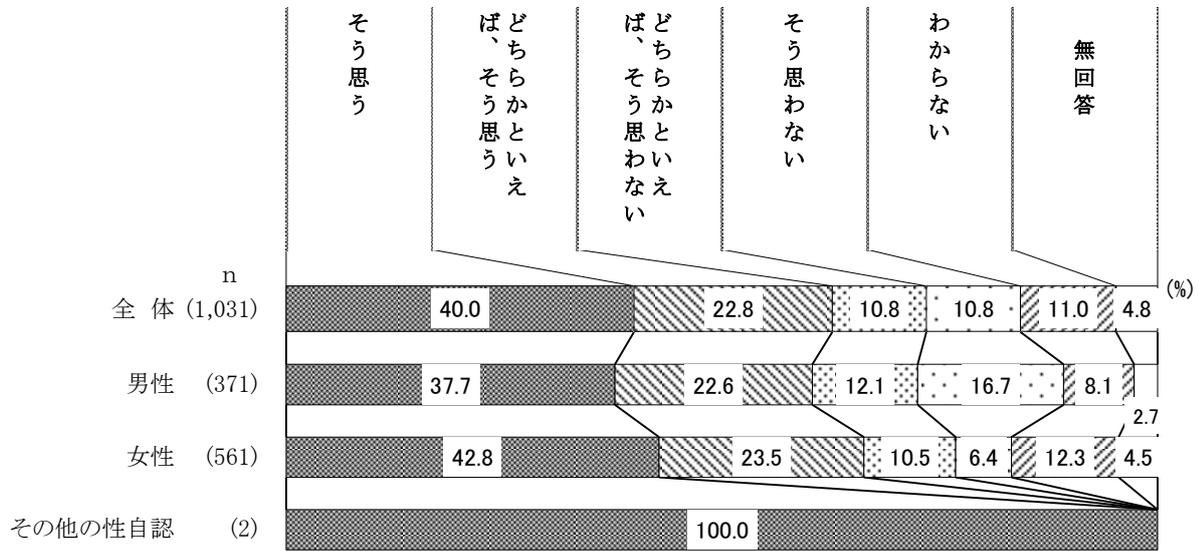
※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問4. 考え方「力。「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」

	全体	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	わからない	無回答
今回調査	100.0	2.9	9.0	15.8	63.9	3.6	4.8
前回調査	100.0	4.5	14.5	16.9	56.9	3.4	3.8

キ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である



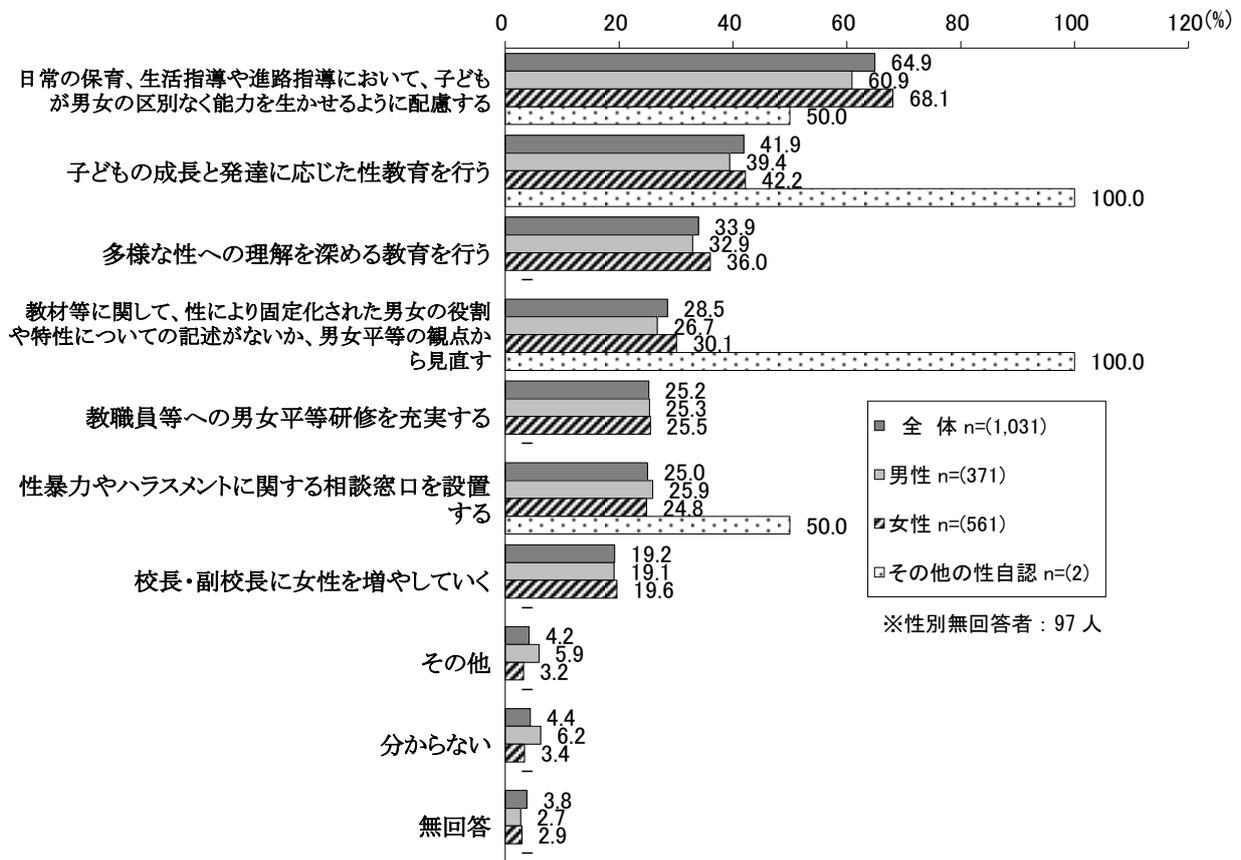
※性別無回答者：97人

2 保育・教育について

■ <問5> 文京区では、区立の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育や教育の現場において、男女平等参画を推進するためにはどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で見ると、「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なくの力を生かせるように配慮する」が64.9%と最も高く、次いで、「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が41.9%、「多様な性への理解を深める教育を行う」が33.9%となっています。

性別で見ると、「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なくの力を生かせるように配慮する」は、男性より女性の方が7.2ポイント高くなっています。



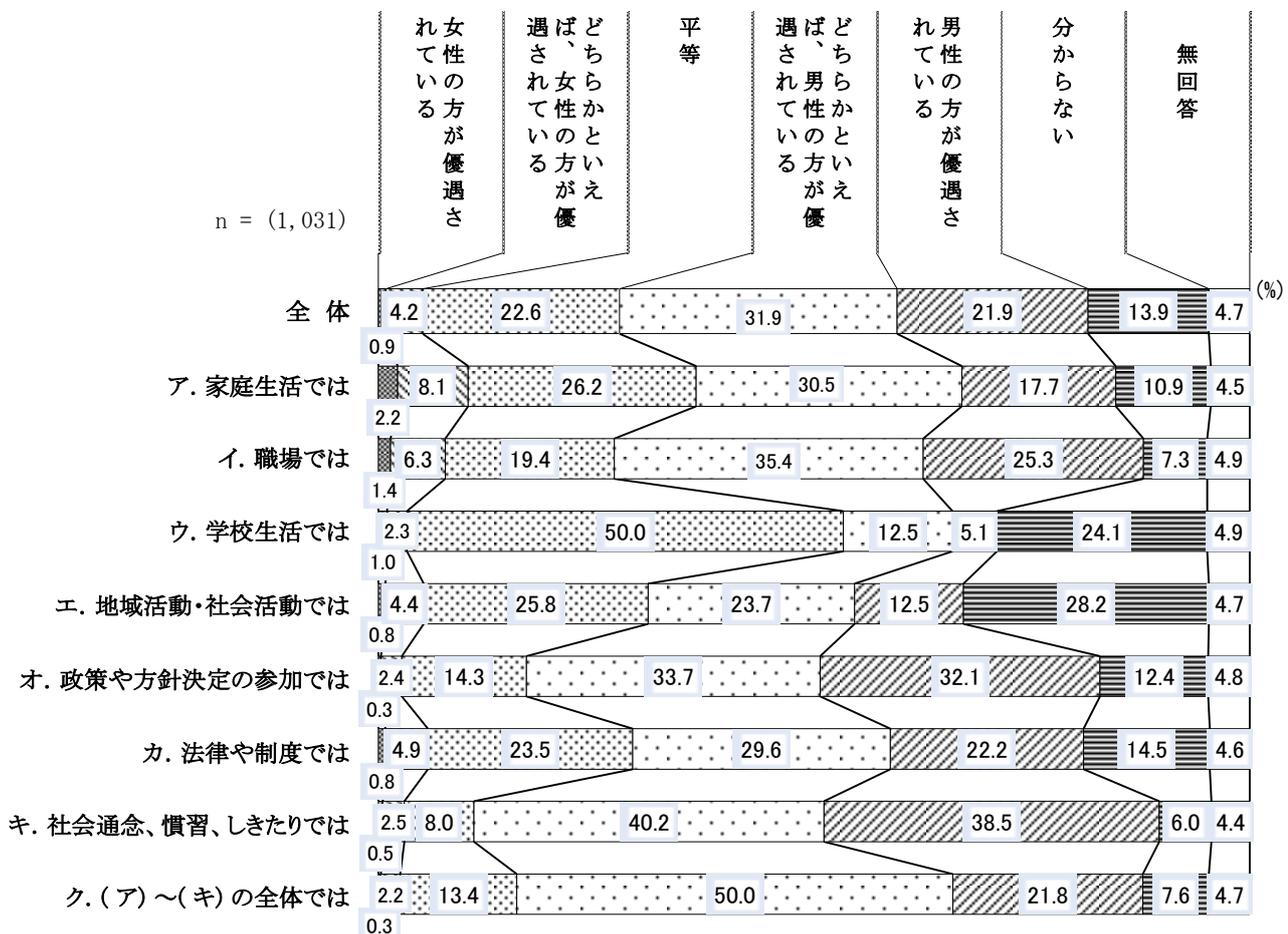
3 男女平等への関心と意識について

■ <問6> あなたは、以下の面で女性と男性が平等になっていると思いますか。あなたの感じ方に近いものを選んでください。(ア～クのそれぞれについて、当てはまる「1～6」に○を1つ)

全体で見ると、男女の地位について、「平等」では「ウ. 学校生活」が50.0%と最も高くなっています。

一方、それ以外の項目は全て『男性の方が優遇されている※』が「平等」を上回っており、特に「キ. 社会通念、慣習、しきたり」と「ク. (ア)～(キ)の全体」では7割以上高くなっています。

※「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計



<前回調査との比較>

問6. 各分野における男女の地位の平等感「ア. 家庭生活では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.2	8.1	26.2	30.5	17.7	10.9	4.5
前回調査	100.0	4.4	10.5	26.7	29.6	15.0	9.5	4.4

問6. 各分野における男女の地位の平等感「イ. 職場では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.4	6.3	19.4	35.4	25.3	7.3	4.9
前回調査	100.0	2.0	6.7	17.7	32.9	25.3	10.4	5.0

問6. 各分野における男女の地位の平等感「ウ. 学校教育では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.0	2.3	50.0	12.5	5.1	24.1	4.9
前回調査	100.0	0.6	3.5	52.1	9.0	2.6	26.4	5.8

問6. 各分野における男女の地位の平等感「エ. 地域活動・社会活動では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.8	4.4	25.8	23.7	12.5	28.2	4.7
前回調査	100.0	0.8	7.2	31.6	23.8	7.8	23.4	5.4

問6. 各分野における男女の地位の平等感「オ. 政策や方針決定の参加では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.3	2.4	14.3	33.7	32.1	12.4	4.8
前回調査	100.0	0.9	2.6	16.1	34.5	27.8	12.5	5.6

問6. 各分野における男女の地位の平等感「カ. 法律や制度では」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.8	4.9	23.5	29.6	22.2	14.5	4.6
前回調査	100.0	1.2	5.4	25.7	31.0	19.4	12.4	5.0

問6. 各分野における男女の地位の平等感「キ. 社会通念、慣習、しきたりでは」

	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.5	2.5	8.0	40.2	38.5	6.0	4.4
前回調査	100.0	0.6	3.2	7.6	38.4	40.1	5.3	4.8

問6. 各分野における男女の地位の平等感「ク. (ア)～(キ)の全体では」

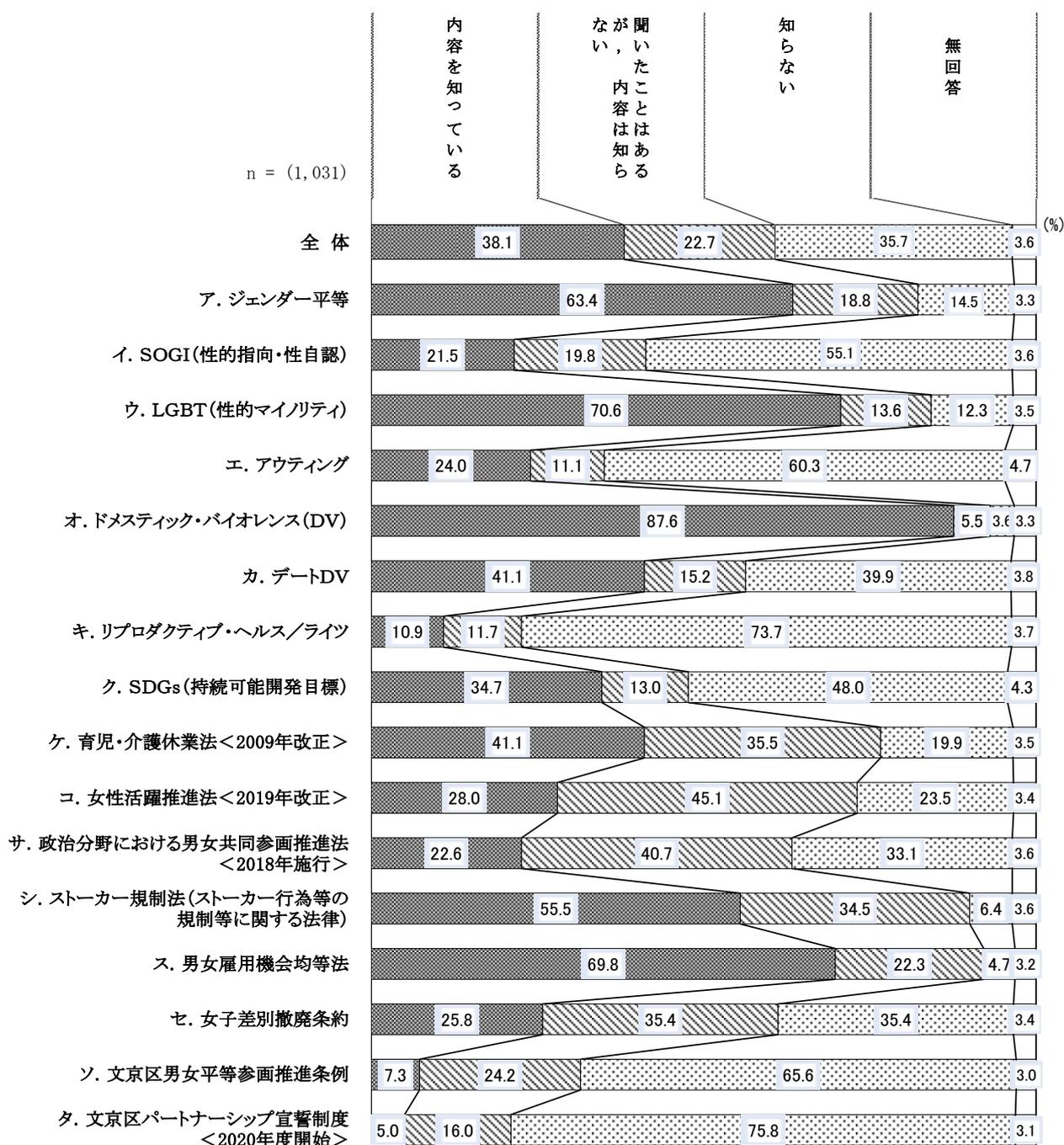
	全体	女性の方が優遇されている	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.3	2.2	13.4	50.0	21.8	7.6	4.7
前回調査	100.0	0.5	3.0	13.1	49.3	19.0	8.6	6.5

■ <問7>あなたは、次あげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
 (ア～タのそれぞれについて、当てはまる「1～3」に○を1つ)

「内容を知っている」では、「オ. ドメスティック・バイオレンス」が87.6%と最も高く、次いで「ウ. LGBT (性的マイノリティ)」が70.6%、「ス. 男女雇用機会均等法」が69.8%、「ア. ジェンダー平等」が63.4%となっています。

一方、「知らない」では、「キ. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」「ソ. 文京区男女共同参画推進条例」「タ. 文京区パートナーシップ宣誓制度」が7割前後となっています。

前回調査と比較すると、「ウ. LGBT (性的マイノリティ)」では「内容を知っている」が52ポイントと大幅に増加しています。次いで、「ア. ジェンダー平等」、「カ. デートDV」、「コ. 女性活躍推進法」は約20ポイント増加しています。



<前回調査との比較>

「エ. アウティング」、「ク. SDGs（持続可能開発目標）」、「サ. 政治分野における男女共同参画推進法<2018年施行>」、「タ. 文京区パートナーシップ宣誓制度<2020年度開始>」は、今回からの新規項目のため掲載なし。

問7. 言葉の認知度「ア. ジェンダー平等」※

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	63.4	18.8	14.5	3.3
前回調査	100.0	42.2	20.0	34.6	3.2

※ 前回調査時：シ. ジェンダー

問7. 言葉の認知度「イ. SOGI（性的指向・性自認）」※

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	21.5	19.8	55.1	3.6
前回調査	100.0	18.3	29.8	48.2	3.7

※ 前回調査時：コ. 性的指向、性的自認

問7. 言葉の認知度「ウ. LGBT（性的マイノリティ）」※

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	70.6	13.6	12.3	3.5
前回調査	100.0	18.6	9.1	69.1	3.2

※ 前回調査時：ト. LGBT

問7. 言葉の認知度「オ. ドメスティック・バイオレンス（DV）」※

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	87.6	5.5	3.6	3.3
前回調査	100.0	53.1	38.3	5.3	3.3

※ 前回調査時：エ. ドメスティック・バイオレンス防止法（DV防止法・DV法）

問7. 言葉の認知度「カ. デートDV」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	41.1	15.2	39.9	3.8
前回調査	100.0	23.8	15.8	56.9	3.5

問7. 言葉の認知度「キ. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	10.9	11.7	73.7	3.7
前回調査	100.0	6.6	10.8	79.4	3.2

問7. 言葉の認知度「ケ. 育児・介護休業法<2009年改正>」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	41.1	35.5	19.9	3.5
前回調査	100.0	42.8	42.1	12.3	2.8

問7. 言葉の認知度「コ. 女性活躍推進法<2019年改正>」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	28.0	45.1	23.5	3.4
前回調査	100.0	11.8	35.3	48.5	4.4

問7. 言葉の認知度「シ. ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	55.5	34.5	6.4	3.6
前回調査	100.0	59.1	34.5	3.8	2.6

問7. 言葉の認知度「ス. 男女雇用機会均等法」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	69.8	22.3	4.7	3.2
前回調査	100.0	68.6	25.1	3.3	3.1

問7. 言葉の認知度「セ. 女子差別撤廃条約」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	25.8	35.4	35.4	3.4
前回調査	100.0	13.6	36.3	46.1	4.0

問7. 言葉の認知度「ソ. 文京区男女平等参画推進条例」

	全体	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
今回調査	100.0	7.3	24.2	65.6	3.0
前回調査	100.0	4.5	29.2	62.8	3.5

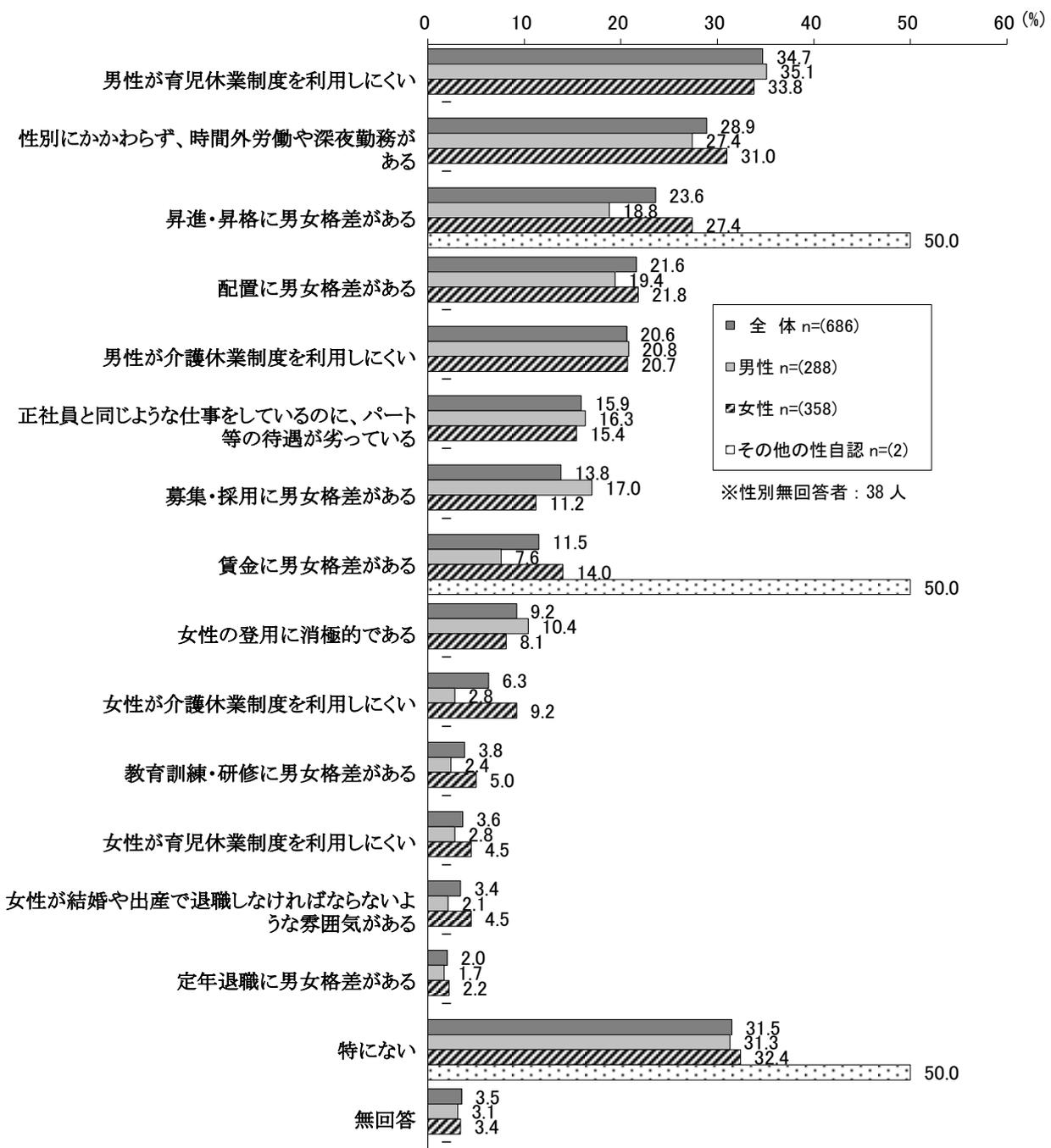
4 就労・職場について

■ <問8-1> 【現在、就業している方（問8で1～5を選んだ方）のみご回答ください】

あなたの職場では、次のようなことがあると感じますか。（○はいくつでも）

全体で見ると、「男性が育児休業制度を利用しにくい」が34.7%と最も高く、次いで、「性別にかかわらず、時間外労働や深夜勤務がある」が28.9%となっています。

性別で見ると、「募集・採用に男女格差がある」は、女性より男性の方が5.8ポイント高くなっています。「昇進・昇格に男女格差がある」は8.6ポイント、「賃金に男女格差がある」は6.4ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



< 前回調査との比較 >

問 8-1. 職場における（仕事内容や待遇面での）男女での違い

	全体	募集・採用に男女格差がある	賃金に男女格差がある	昇進・昇格に男女格差がある	配置に男女格差がある	教育訓練・研修に男女格差がある	定年退職に男女格差がある
今回調査	100.0	13.8	11.5	23.6	21.6	3.8	2.0
前回調査	100.0	16.5	11.5	19.8	20.1	2.9	2.2

	女性が結婚や出産で退職しなければならぬような雰囲気がある	男性が育児休業制度を利用しにくい	男性が介護休業制度を利用しにくい	女性が育児休業制度を利用しにくい	女性が介護休業制度を利用しにくい	正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている	女性の登用に消極的である ※2
今回調査	3.4	34.7	20.6	3.6	6.3	15.9	9.2
前回調査	6.6	-	-	-	-	17.8	22.2

	性別にかかわらず、時間外労働や深夜勤務がある	特がない	無回答
今回調査	28.9	31.5	3.5
前回調査	31.7	25.8	5.9

※1 前回調査時から育児休業と介護休業を分割

※2 前回調査時：会社は積極的に女性の登用をはかっている

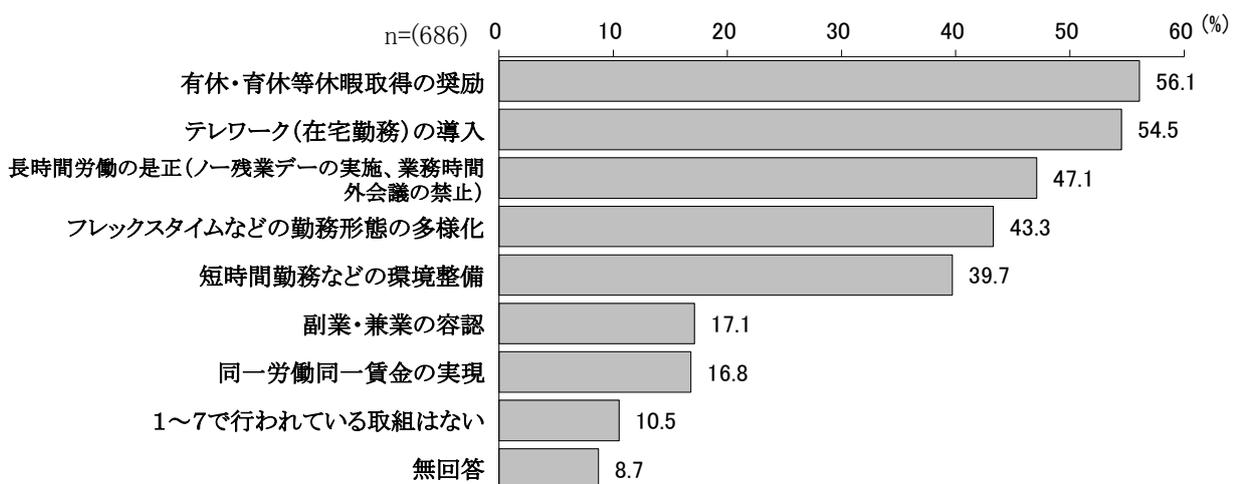
■ <問8-2> 【現在、就業している方（問8で1～5を選んだ方）のみご回答ください】

次の勤務形態や取組のうち、就労先で現在、行われているものはありますか。また、今後行ってほしいものはありますか。（それぞれ〇はいくつでも）

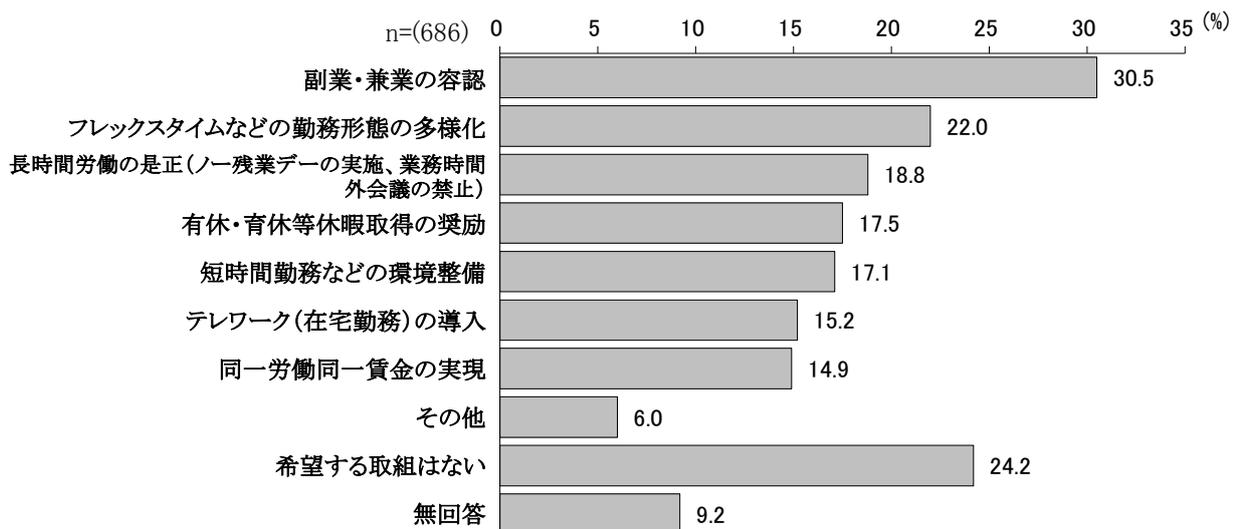
現在の取組は、「有給・育休等休暇取得の奨励」が56.1%と最も高く、次いで、「テレワーク（在宅勤務）の導入」が54.5%となっています。

今後希望する取組は、「副業・兼業の容認」が30.5%と最も高くなっています。

①現在、行われているもの



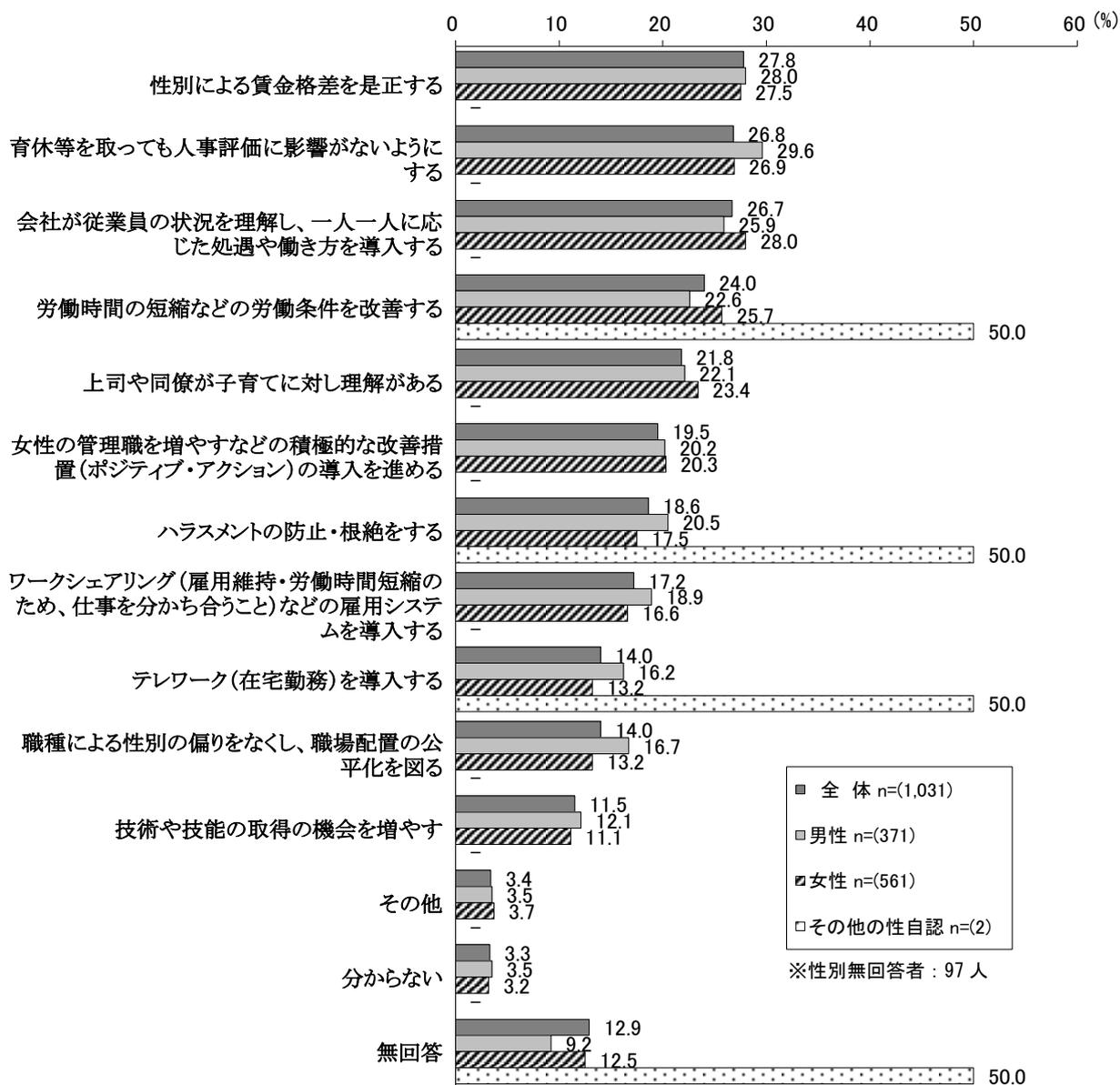
②今後、行ってほしいもの



■ <問9>あなたは、性別にかかわらず働きやすい職場環境をつくるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体でみると、「性別による賃金格差を是正する」が27.8%と最も高く、次いで、「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」が26.8%、「会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する」が26.7%となっています。

性別間では、大きな差はありません。



<前回調査との比較>

問9. 性別に関わらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

	全体	性別による賃金格差を是正する	女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置の導入を進める	労働時間の短縮などの労働条件を改善する	ワークシェアリングなどの雇用システムを導入する	テレワーク（在宅勤務）を導入する ※1	職種による性別の偏りをなくし、職場配置の公平化を図る	育休等を取っても人事評価に影響がないようにする ※2
今回調査	100.0	27.8	19.5	24.0	17.2	14.0	14.0	26.8
前回調査	100.0	28.3	15.5	31.4	30.1	-	18.7	-

	技術や技能の取得の機会を増やす	上司や同僚が子育てに対し理解がある ※3	会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する	職場で一人ひとりが努力し、お互いに協力する ※4	ハラスメントの防止・根絶をする	その他	分からない	無回答
今回調査	11.5	21.8	26.7	-	18.6	3.4	3.3	12.9
前回調査	15.8	-	38.3	24.3	15.4	4.1	3.5	7.1

※1～3 今回調査からの新規項目

※4 前回調査時から削除

5 女性の活躍について

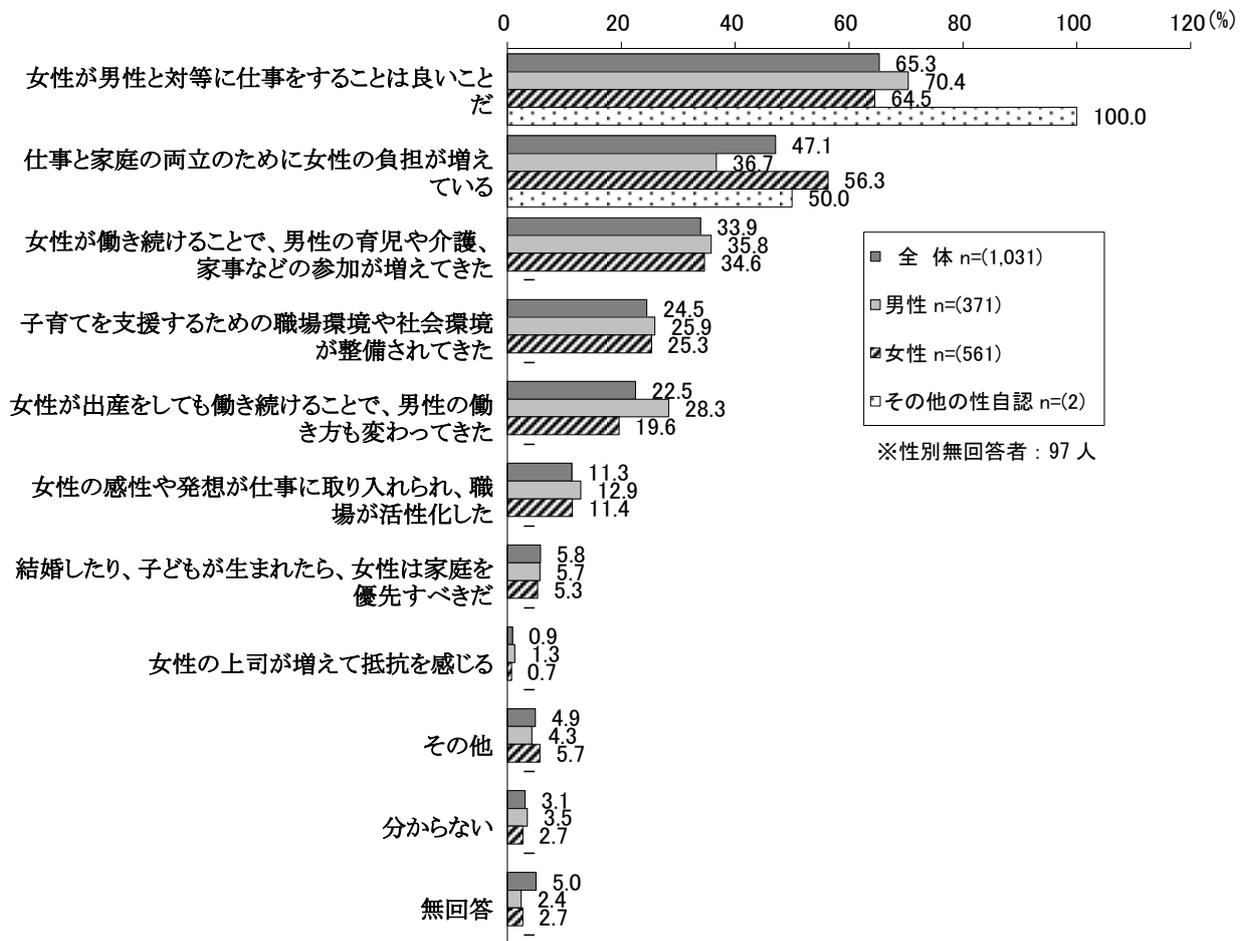
まとめ

女性が、男性と対等に仕事をするということについて、6割台半ばの人が肯定しています。その一方で、女性は「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」と感じており、女性の管理職登用への支援策としては、男性の働き方の見直しや上司・同僚等の周囲の子育てへの理解、女性の管理職への支援等、働く上でのサポート体制の充実を求めています。

■ <問 10> あなたは、女性が仕事を持って働き続けることについて、どのように感じていますか。
(○は3つまで)

全体で見ると、「女性が男性と対等に仕事をするのは良いことだ」が65.3%と最も高く、次いで、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」が47.1%、「女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた」が33.9%となっています。

性別で見ると、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は、男性より女性の方が19.6ポイント高くなっています。「女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」は、女性より男性の方が8.7ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 10. 女性が働き続けることに対する意識

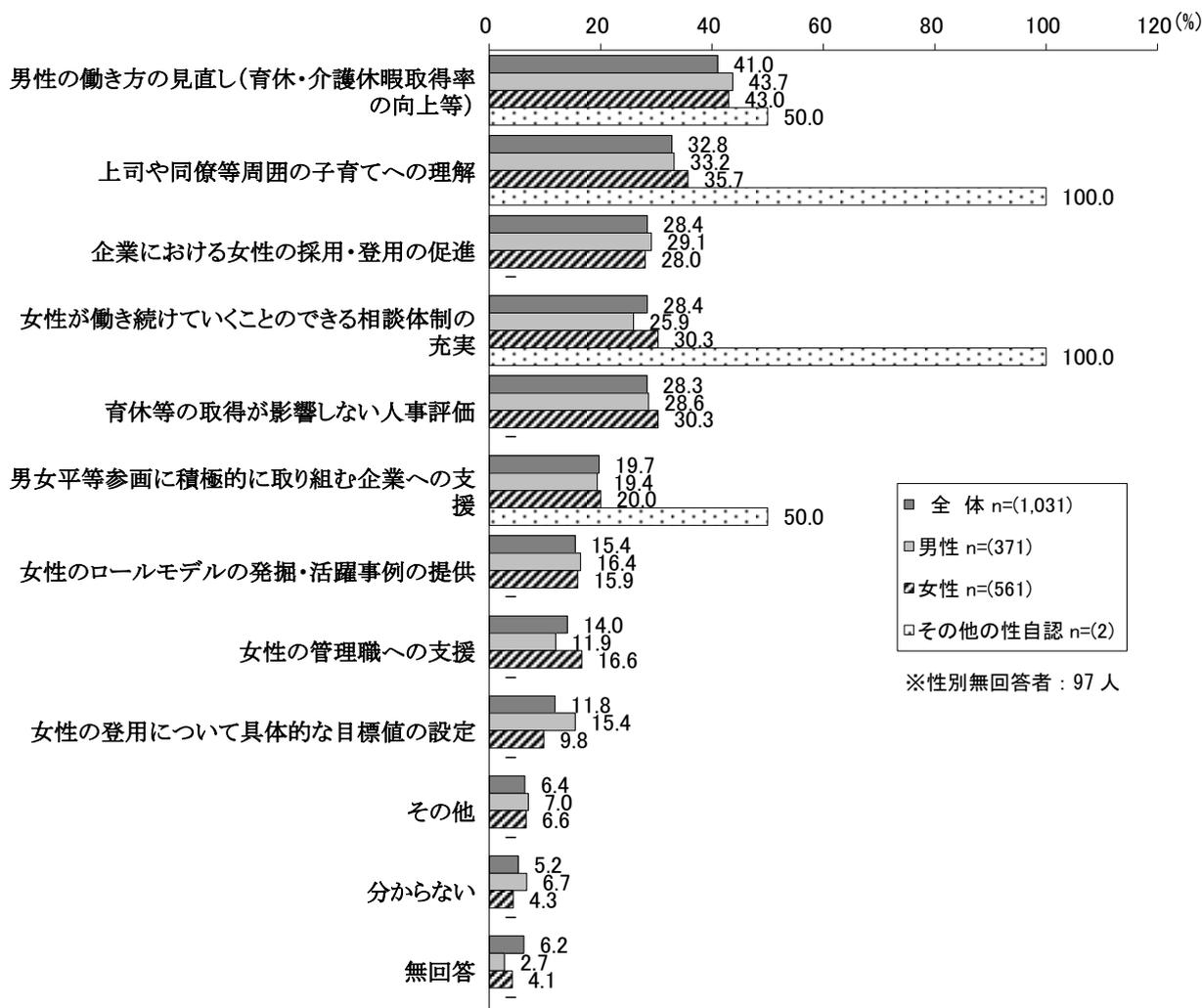
	全体	女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ	女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた	女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた	子育てを支援するための職場環境や社会環境が整備されてきた	女性の感性や発想が仕事に取り入れられ、職場が活性化した	女性の上司が増えて抵抗を感じる	仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている
今回調査	100.0	65.3	22.5	33.9	24.5	11.3	0.9	47.1
前回調査	100.0	57.2	26.8	31.0	20.9	12.5	1.3	45.4

	結婚したり、子どもが生まれたら、女性は家庭を優先すべきだ	その他	分からない	無回答
今回調査	5.8	4.9	3.1	5.0
前回調査	10.3	5.8	3.1	3.8

■ <問 11> あなたは、雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の活躍を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体で見ると、「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」が41.0%と最も高く、次いで、「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」が32.8%、「企業における女性の採用・登用の促進」と「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」が28.4%となっています。

性別で見ると、「女性の登用について具体的な目標値の設定」は、女性より男性の方が5.6ポイント高くなっています。「女性の管理職への支援」では、男性より女性の方が4.7ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 11. 女性の管理職登用など活躍を促すために必要な支援

	全体	企業における女性の採用・登用の促進	女性の登用について具体的な目標値の設定	女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供	女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実	男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	女性の管理職への支援	男性の働き方の見直し（育休・介護休暇取得率の向上等）※1
今回調査	100.0	28.4	11.8	15.4	28.4	19.7	14.0	41.0
前回調査	100.0	39.0	15.2	19.4	39.4	36.1	22.7	-

	育休等の取得が影響しない人事評価※2	上司や同僚等周囲の子育てへの理解※3	その他	分からない	無回答
今回調査	28.3	32.8	6.4	5.2	6.2
前回調査	-	-	10.5	11.0	5.1

※1～3 今回調査からの追加項目

6 家庭生活と社会生活の両立について

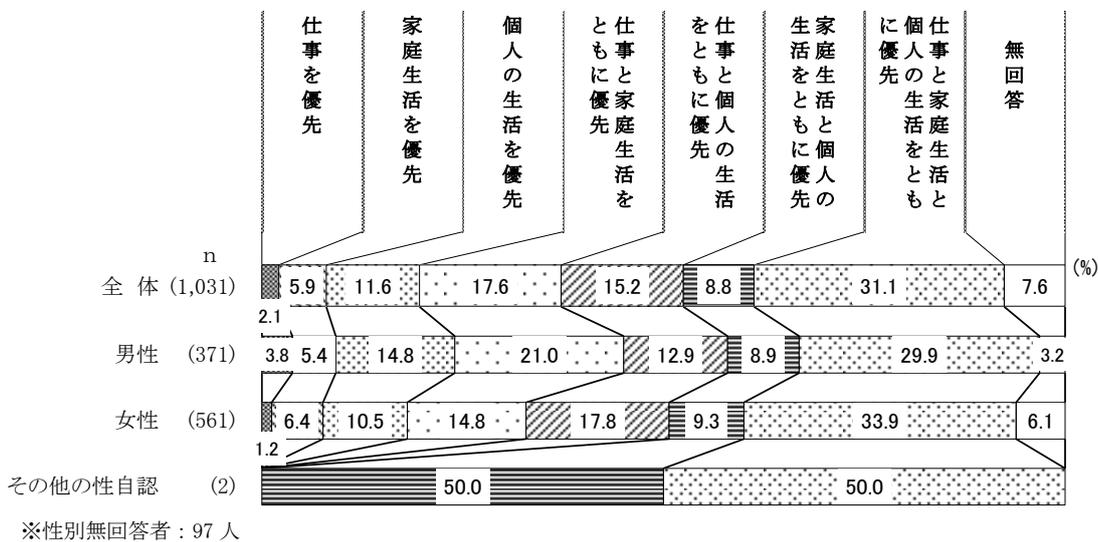
■ <問 12>ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についての考え方で、あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを1つずつ選んでください。（それぞれについて○は1つ）

希望では、「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」が31.1%と最も高くなっています。一方、現実（現状）では、「仕事を優先」が37.5%と最も高くなっています。

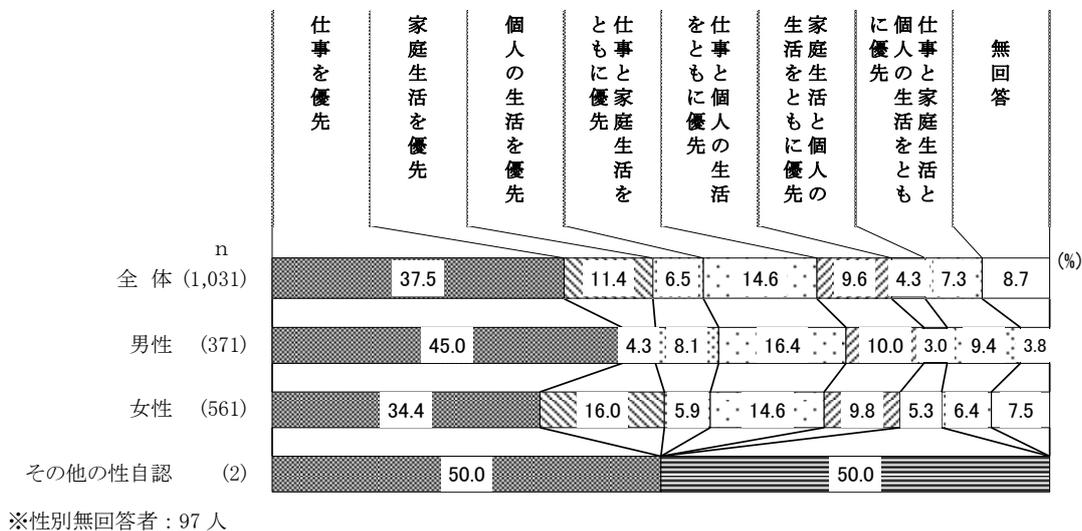
現実（現状）を性別でみると、「仕事を優先」は、女性より男性の方が10.6ポイント高くなっています。「家庭生活を優先」は、男性より女性の方が11.7ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、希望では「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」が12.2ポイント増加しています。

希望



現実（現状）



<前回調査との比較>

問 12. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度<<希望>>

	全体	仕事を優先	家庭生活を優先	個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と個人の生活をともに優先	家庭生活と個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先	無回答
今回調査	100.0	2.1	5.9	11.6	17.6	15.2	8.8	31.1	7.6
前回調査	100.0	3.5	17.6	4.6	33.1	7.6	6.6	18.9	8.0

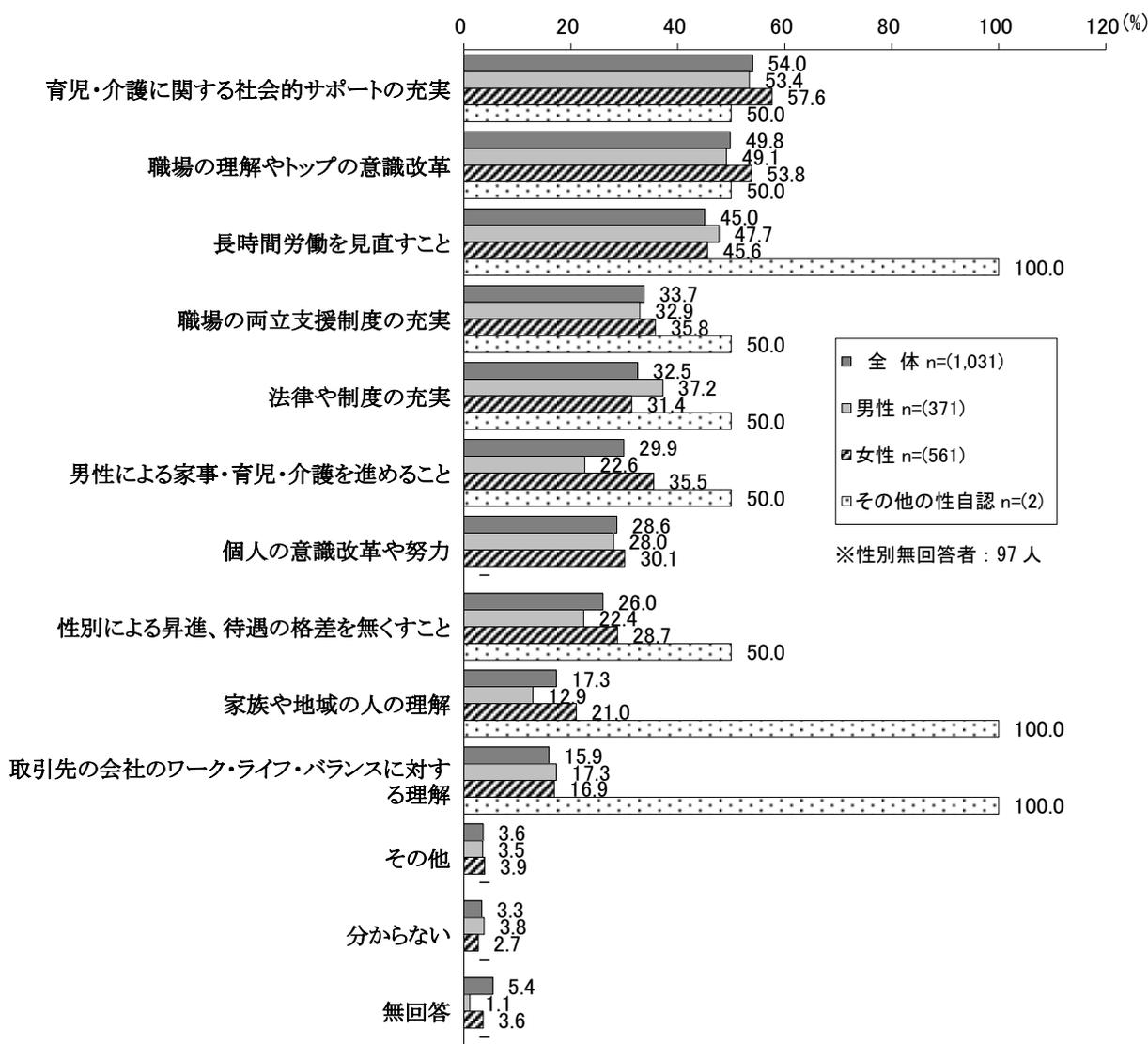
問 12. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度<<現実（現状）>>

	全体	仕事を優先	家庭生活を優先	個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と個人の生活をともに優先	家庭生活と個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先	無回答
今回調査	100.0	37.5	11.4	6.5	14.6	9.6	4.3	7.3	8.7
前回調査	100.0	42.9	18.7	2.2	18.2	2.6	3.1	3.1	9.2

■ <問 13> あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図る上で、どのようなことが重要だと思えますか。（〇はいくつでも）

全体で見ると、「育児・介護に関する社会的サポートの充実」が 54.0%と最も高く、次いで、「職場の理解やトップの意識改革」が 49.8%、「長時間労働を見直すこと」が 45.0%となっています。

性別で見ると、「法律や制度の充実」は、女性より男性の方が 5.8 ポイント高くなっています。「男性による家事・育児・介護を進めること」は、男性より女性の方が 12.9 ポイント高くなっています。前回調査と比較すると、「法律や制度の充実」は 10.9 ポイント増加しています。



<前回調査との比較>

問 13. 社会全体として仕事と生活の調和を推進するために必要なこと

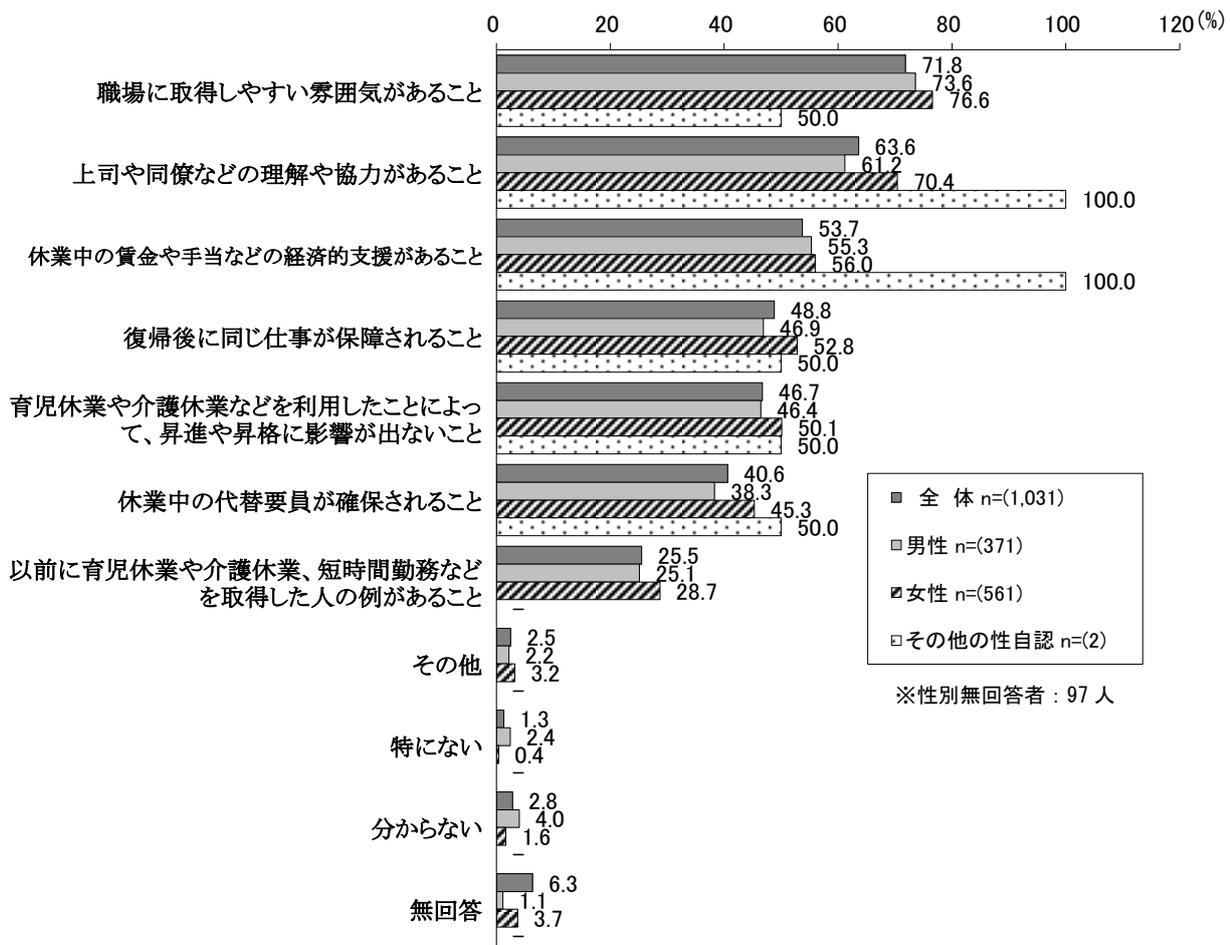
	全体	育児・介護に関する社会的サポートの充実	職場の両立支援制度の充実	長時間労働を見直すこと	法律や制度の充実	性別による昇進、待遇の格差を無くすこと	男性による家事・育児・介護を進めること	個人の意識改革や努力
今回調査	100.0	54.0	33.7	45.0	32.5	26.0	29.9	28.6
前回調査	100.0	59.1	32.9	45.7	21.6	18.1	29.9	28.3

	職場の理解やトップの意識改革	家族や地域の人々の理解	取引先の会社のワーク・ライフ・バランスに対する理解	その他	分からない	無回答
今回調査	49.8	17.3	15.9	3.6	3.3	5.4
前回調査	49.4	18.1	13.7	2.8	4.5	4.5

■ <問 14> あなたは、育児や介護における休業・休暇等を取得しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(それぞれについて○は1つ)

全体でみると、「職場に取得しやすい雰囲気があること」が71.8%と最も高く、次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が63.6%、「休業中の賃金や手当などの経済的支援があること」が53.7%となっています。

性別でみると、「上司や同僚などの理解や協力があること」は9.2ポイント、「休業中の代替要員が確保されること」は7.0ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



<前回調査との比較>

問 14. 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと

	全体	職場に取得しやすい雰囲気があること	以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること	上司や同僚などの理解や協力があること	休業中の賃金や手当などの経済的支援があること	育児休業や介護休業などを利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと	休業中の代替要員が確保されること	復帰後に同じ仕事が保障されること
今回調査	100.0	71.8	25.5	63.6	53.7	46.7	40.6	48.8
前回調査	100.0	73.4	25.3	67.8	51.9	48.7	35.1	52.1

	その他	特にない	分からない	無回答
今回調査	2.5	1.3	2.8	6.3
前回調査	3.4	0.6	4.4	4.0

7 地域活動、社会活動への参画について

■ <問 16> あなたが、この1年間に参加した地域活動や社会活動は、次のうちどれですか。
(〇はいくつでも)

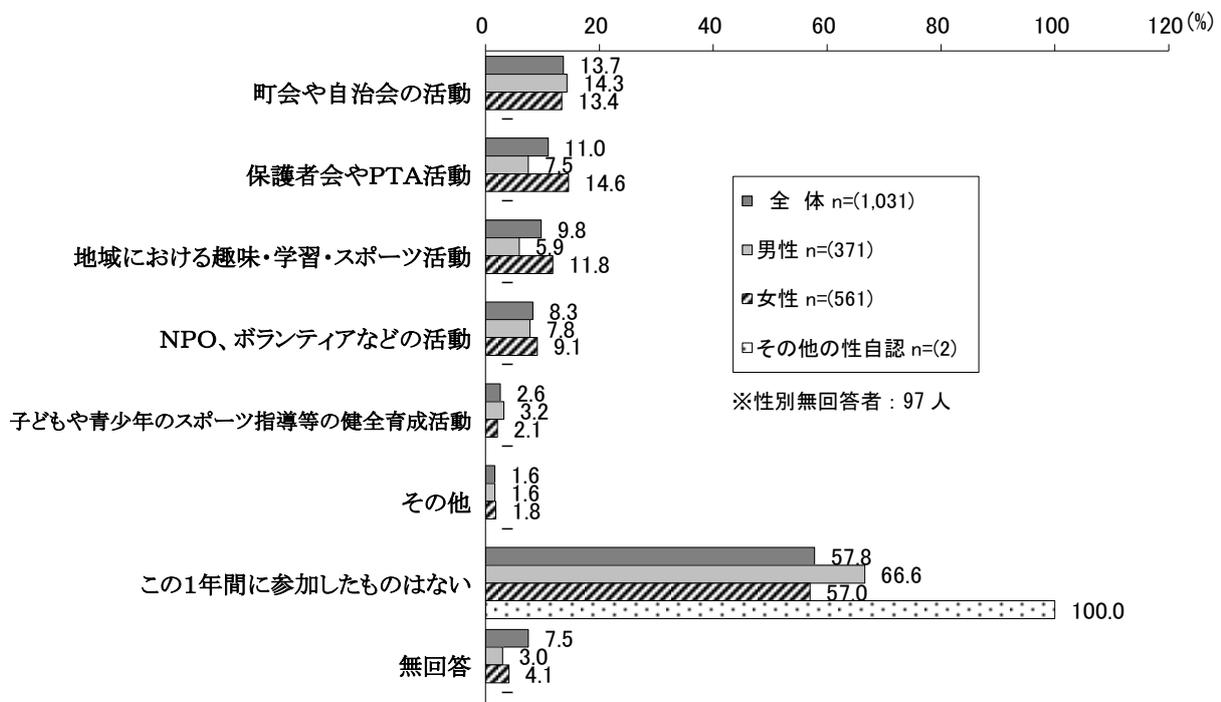
全体で見ると、「町会や自治会の活動」が13.7%、「保護者会やPTA活動」が11.0%、「地域における趣味・学習・スポーツ活動」が9.8%と続いています。

一方で、「この1年間に参加したものはなし」は57.8%と最も高くなっています。

性別で見ると、「保護者会やPTA活動」は、男性より女性の方が7.1ポイント高くなっています。

「この1年間に参加したものはなし」は、女性より男性の方が9.6ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「この1年間に参加したものはなし」は17.8ポイント増加しています。



<前回調査との比較>

問 16. この1年間に参加した地域活動や社会活動

	全体	町会や自治会の活動	保護者会やPTA活動	子どもや青少年のスポーツ指導等の健全育成活動	地域における趣味・学習・スポーツ活動 ※	NPO、ボランティアなどの活動	その他	この1年間に参加したものはない
今回調査	100.0	13.7	11.0	2.6	9.8	8.3	1.6	57.8
前回調査	100.0	19.1	14.7	2.5	30.3	9.9	2.0	40.0

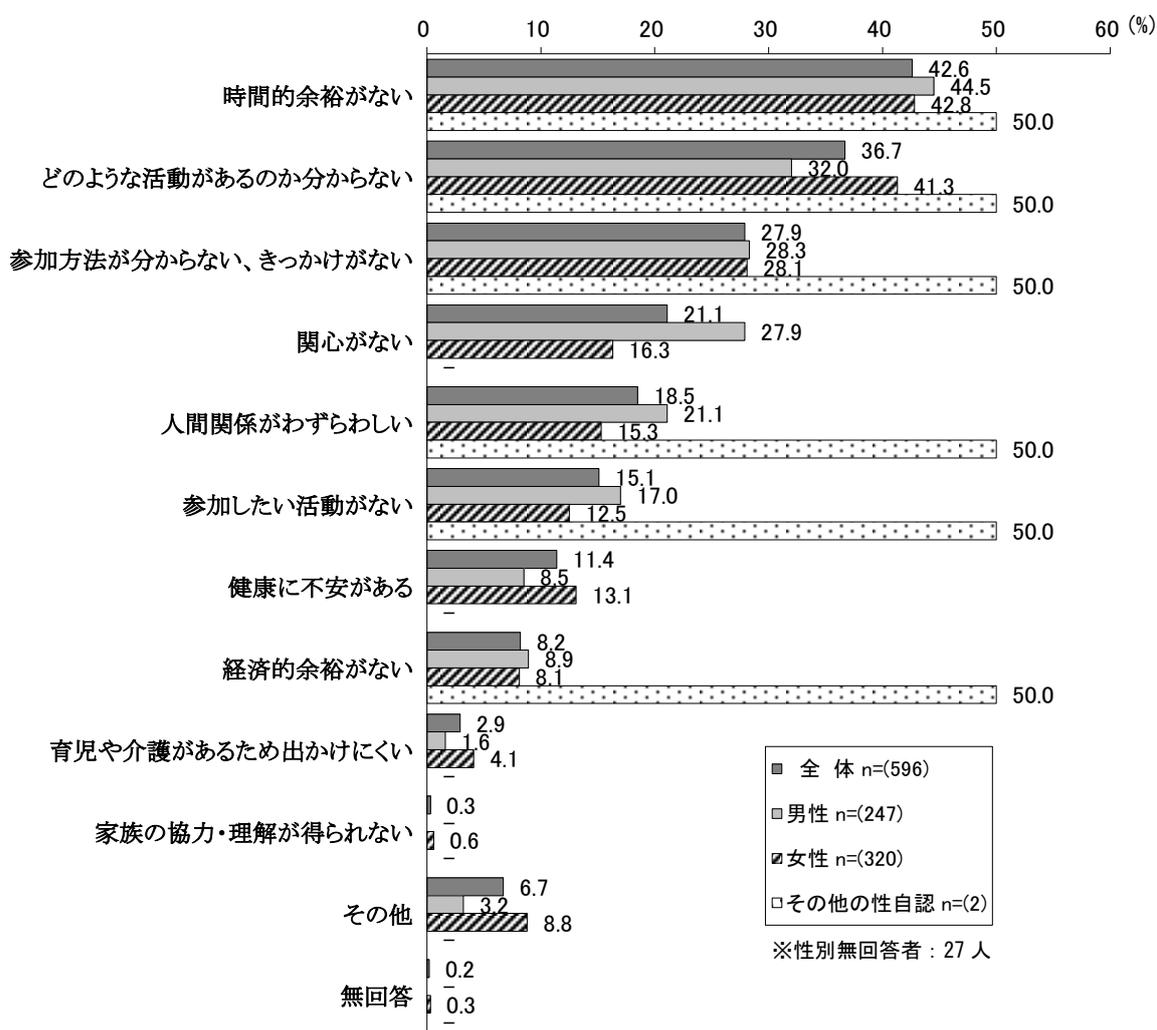
	無回答
今回調査	7.5
前回調査	6.1

※ 前回調査時：趣味・学習・スポーツ活動（個人の活動との混同を防ぐため変更）

■ <問 16-1> 【問 16 で「7（この1年間に参加したものはない）」を選んだ方のみご回答ください】
 あなたが地域活動・社会活動に参加していない理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

全体で見ると、「時間的余裕がない」が42.6%と最も高く、次いで、「どのような活動があるのか分からない」が36.7%、「参加方法が分からない、きっかけがない」が27.9%となっています。

性別で見ると、「関心がない」は11.6ポイント、「人間関係がわずらわしい」は5.8ポイント、「参加したい活動がない」は4.5ポイント、女性より男性の方が高くなっています。「どのような活動があるのか分からない」は9.3ポイント、「健康に不安がある」は4.6ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



<前回調査との比較>

問 16-1. 地域活動・社会活動に参加していない理由

	全体	時間的余裕がない	参加したい活動がない	どのような活動があるのか分からない	参加方法が分からない、きっかけがない	人間関係がわずらわしい	家族の協力・理解が得られない	育児や介護があるため出かけにくい
今回調査	100.0	42.6	15.1	36.7	27.9	18.5	0.3	2.9
前回調査	100.0	42.0	14.5	32.8	26.0	15.7	0.9	5.9

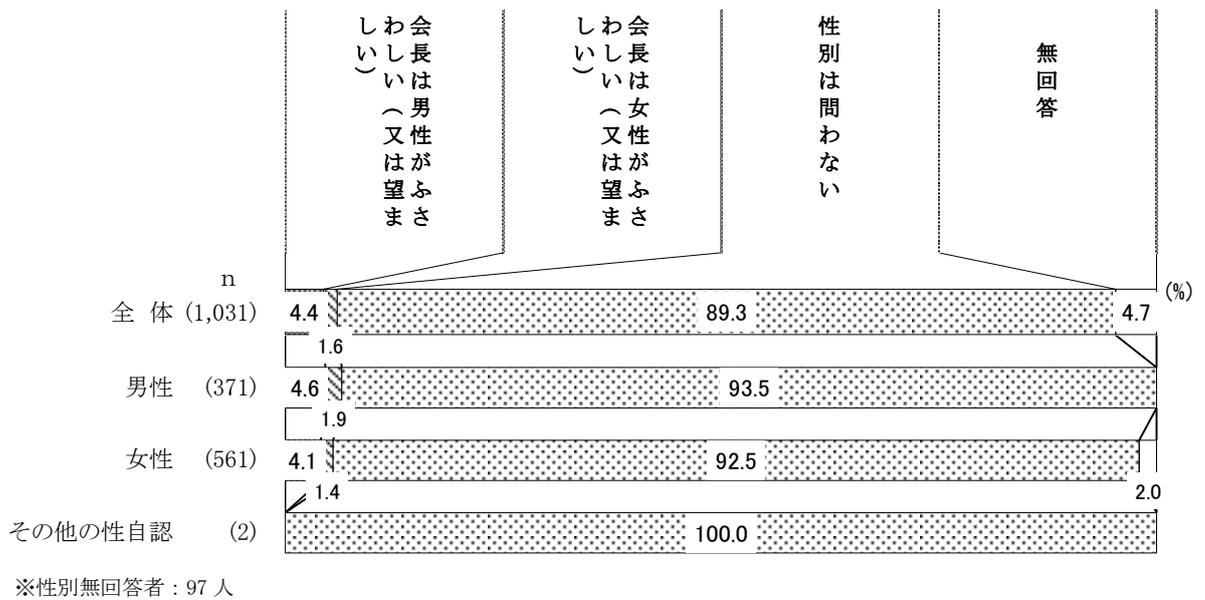
	健康に不安がある	経済的余裕がない	関心がない	その他	無回答
今回調査	11.4	8.2	21.1	6.7	0.2
前回調査	11.5	9.8	21.0	8.3	0.0

■ <問 17> あなたの住んでいる地域では、町会・自治会やPTAなどの地域活動における会長の性別について、どちらがふさわしい（又は望ましい）と思いますか。（それぞれ〇は1つ）

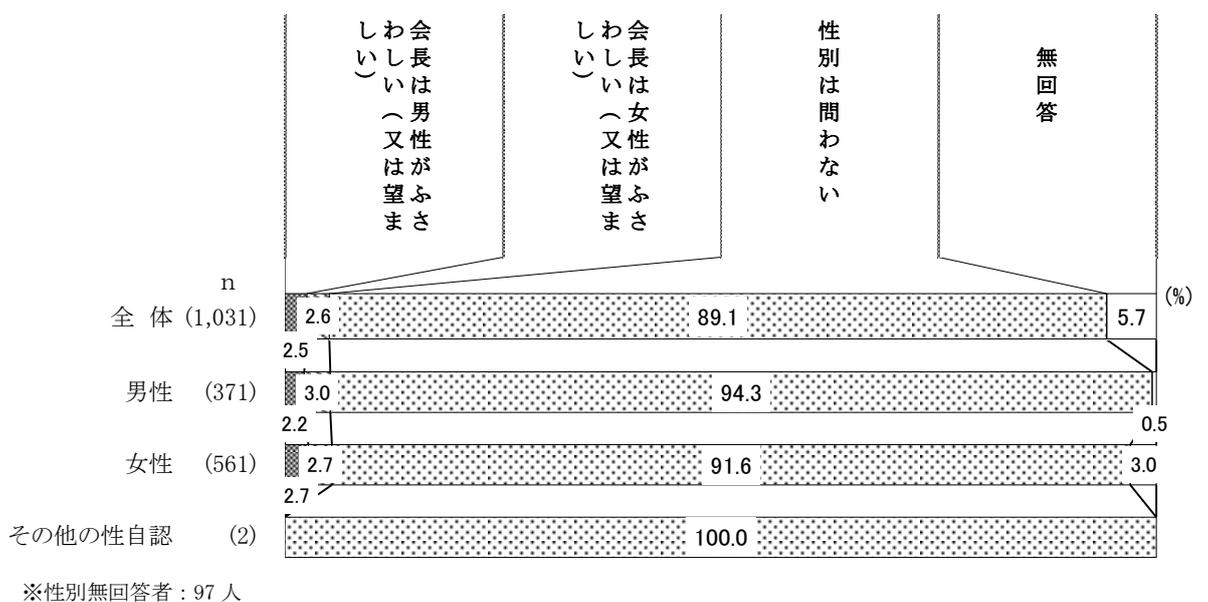
①町会・自治会では「性別は問わない」が89.3%と最も高くなっています。②小・中学校のPTAでは、「性別は問わない」が89.1%と最も高くなっています。

性別間で、大きな差はありません。

①町会・自治会



②小・中学校のPTA

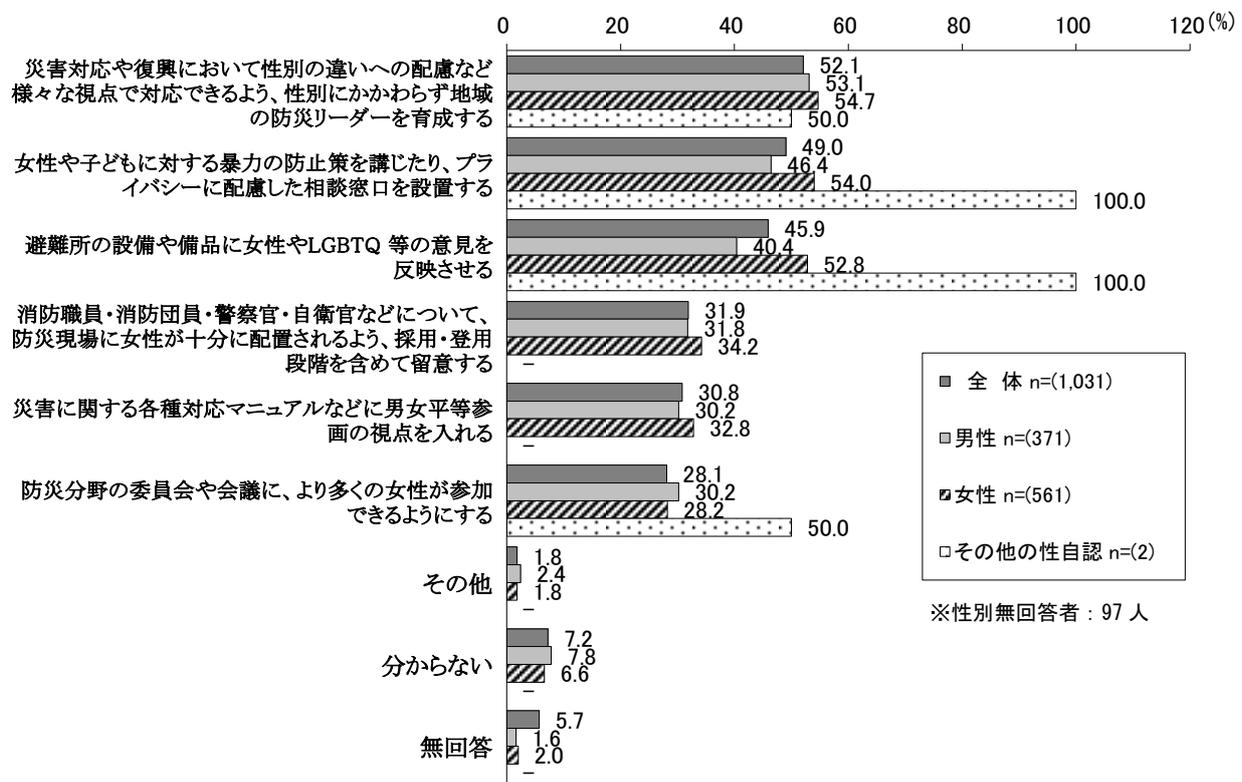


■ <問 18> あなたは災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」が 52.1%と最も高く、次いで、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が 49.0%、「避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる」が 45.9%となっています。

性別でみると、「避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる」は 12.4 ポイント、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」は 7.6 ポイント、男性より女性の方が高くなっています。

前回調査と比較すると、「災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」は 19.2 ポイント増加しています。



<前回調査との比較>

問 18. 男女双方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと

	全体	女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する ※1	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる ※2	その他
今回調査	100.0	49.0	28.1	52.1	30.8	31.9	45.9	1.8
前回調査	100.0	44.1	24.2	32.9	22.5	27.2	60.9	2.1

	分からない	無回答
今回調査	7.2	5.7
前回調査	9.7	4.5

※1 前回調査時：災害対応や復興において男女平等参画の視点で対応できるよう、男女両方のリーダーを育成する

※2 前回調査時：避難所設備や備品に女性の意見を反映させる

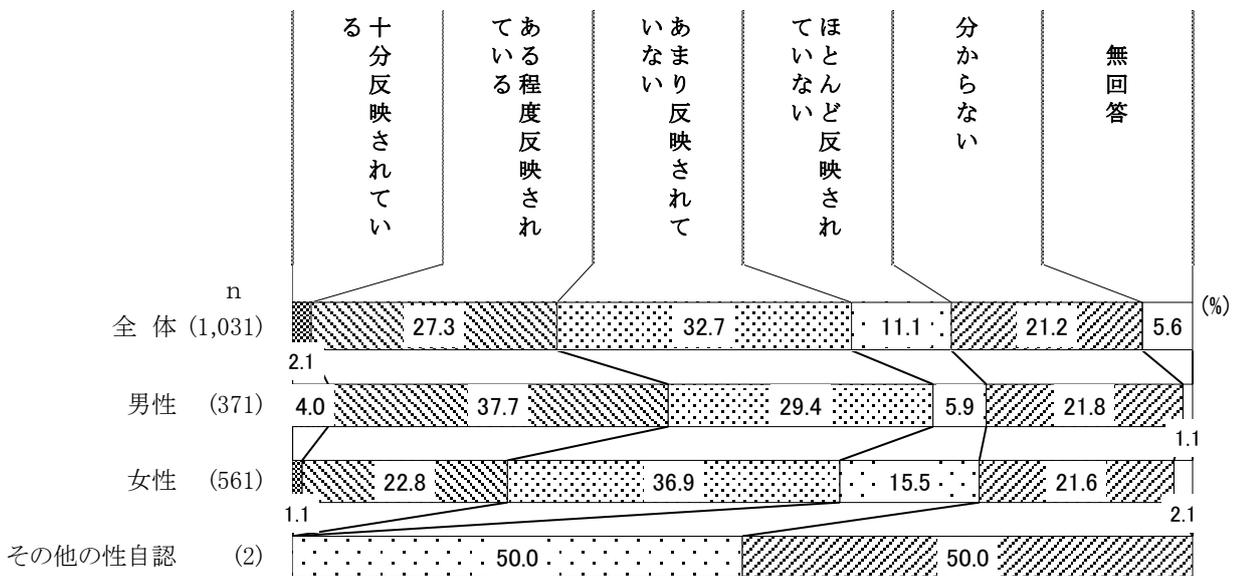
8 政策決定過程への女性の参画について

■ <問 19> あなたは、女性の意見が国や自治体の行政にどの程度反映されていると思いますか。
(○は1つ)

『反映されている※1』は29.4%、『反映されていない※2』は43.8%となっています。
性別でみると、『反映されている』は、女性より男性の方が17.8ポイント高くなっています。

※1 「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計

※2 「ほとんど反映されていない」と「あまり反映されていない」の合計



※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

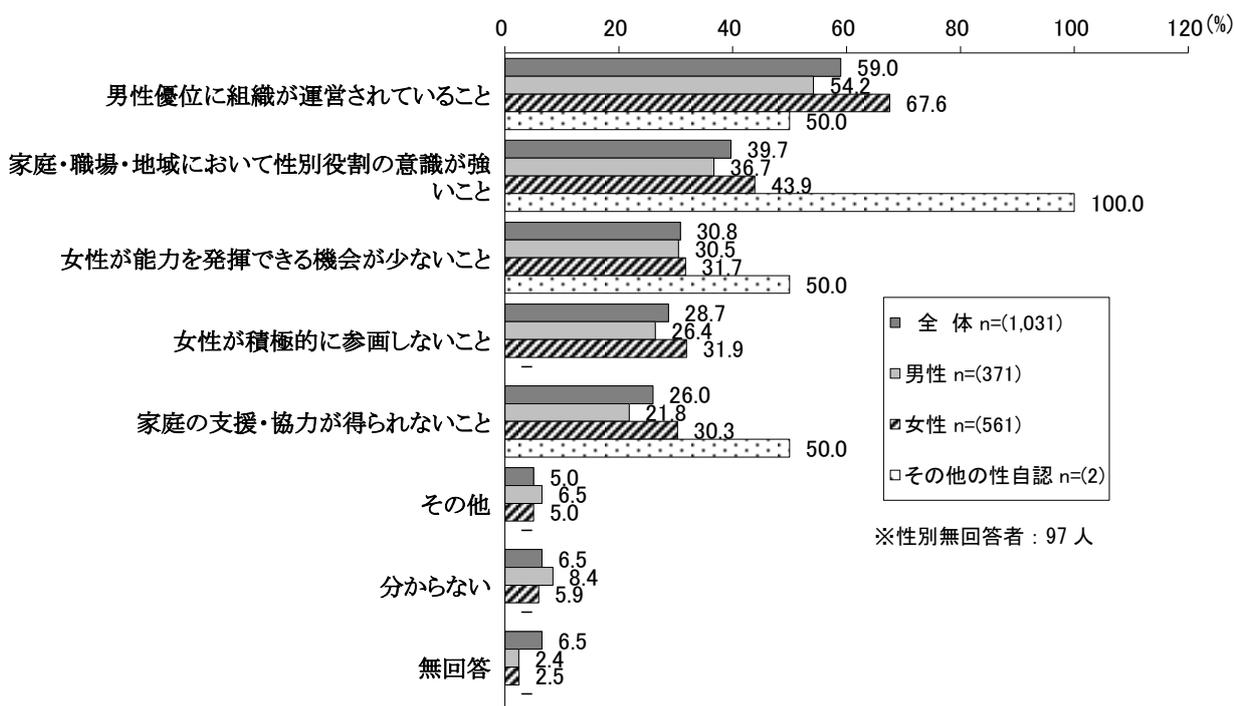
問 19. 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

	全体	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	分からない	無回答
今回調査	100.0	2.1	27.3	32.7	11.1	21.2	5.6
前回調査	100.0	2.1	33.7	32.3	8.6	20.9	2.4

■ <問 20> あなたは、政治の場や仕事の場において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因は、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「男性優位に組織が運営されていること」が 59.0%と最も高く、次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が 39.7%、「女性が能力を発揮できる機会が少ないこと」が 30.8%となっています。

性別でみると、「男性優位に組織が運営されていること」は 13.4 ポイント、「家庭の支援・協力が得られないこと」は 8.5 ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



<前回調査との比較>

問 20. 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

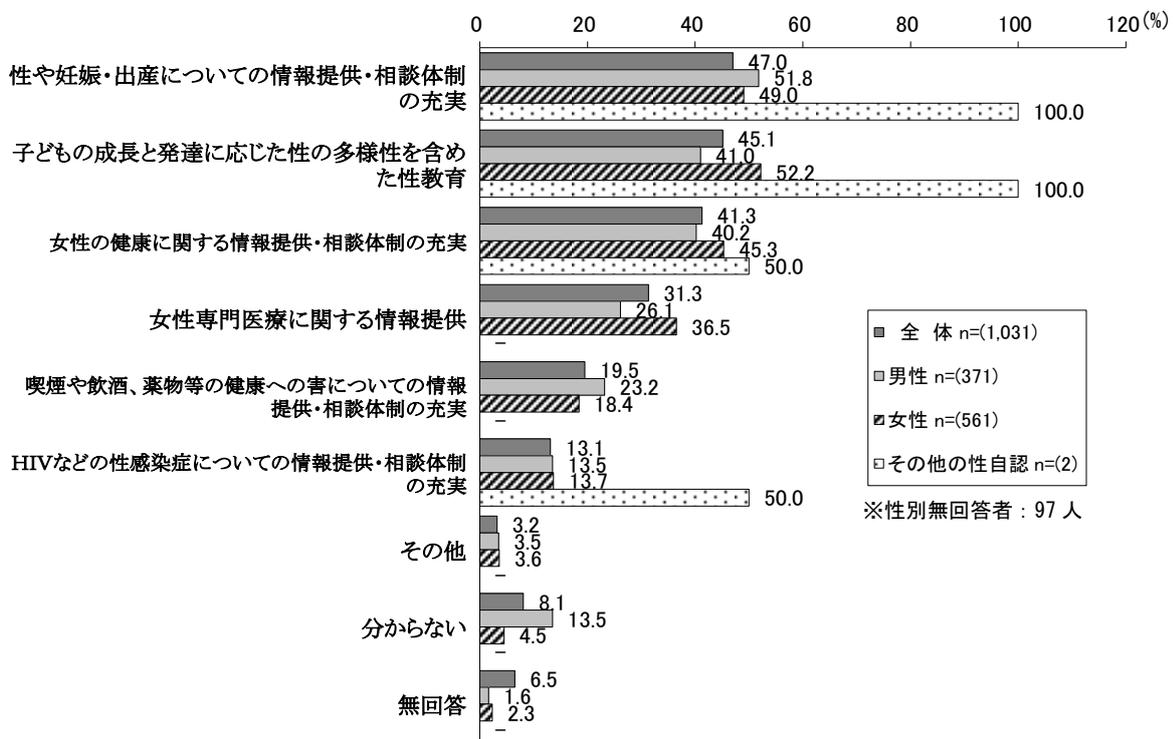
	全体	家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと	男性優位に組織が運営されていること	家庭の支援・協力が得られないこと	女性が能力を発揮できる機会が少ないこと	女性が積極的に参画しないこと	その他	分からない	無回答
今回調査	100.0	39.7	59.0	26.0	30.8	28.7	5.0	6.5	6.5
前回調査	100.0	41.5	52.0	28.3	29.9	30.4	5.0	7.8	3.3

9 健康について

■ <問 23> 女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関して自分の意志で決める上で、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体でみると、「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が47.0%と最も高く、次いで、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」が45.1%、「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」が41.3%となっています。

性別でみると、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」は11.2ポイント、「女性専門医療に関する情報提供」は10.4ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



問 23. 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと

	全体	子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実	更年期についての情報提供・相談体制の充実	女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実	女性専門医療に関する情報提供
今回調査	100.0	45.1	47.0	19.5	13.1	-	41.3	31.3
前回調査	100.0	36.6	41.8	19.9	11.7	12.1	36.6	34.3

	その他	わからない	無回答
今回調査	3.2	8.1	6.5
前回調査	5.1	11.9	4.6

10 人権問題について

まとめ

各ハラスメントの多くは、職場で発生していることが分かりました。職場におけるハラスメント防止策の推進等、更なる対応が必要です。

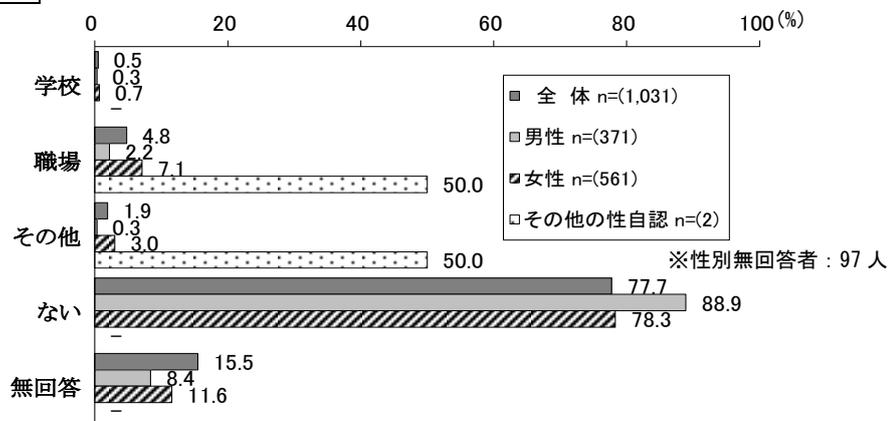
ハラスメントを受けた際は、女性は「相談しても無駄だと思った」「我慢すればやっていけるといった」等、被害を受けても抱え込む傾向にあり、男性は「相談することで不利益な扱いを受けるといった」「相談できる人がいなかった」等、相談をしたくてもできない状況下に置かれているケースが多いことから、職場環境の改善のための取組を進め、気軽に相談ができる相談体制の充実や、その周知・啓発を充実させていくことが必要です。

■ <問 24> あなたは、ここ3年以内に次のハラスメントを受けた経験がありますか。(〇はいくつでも)

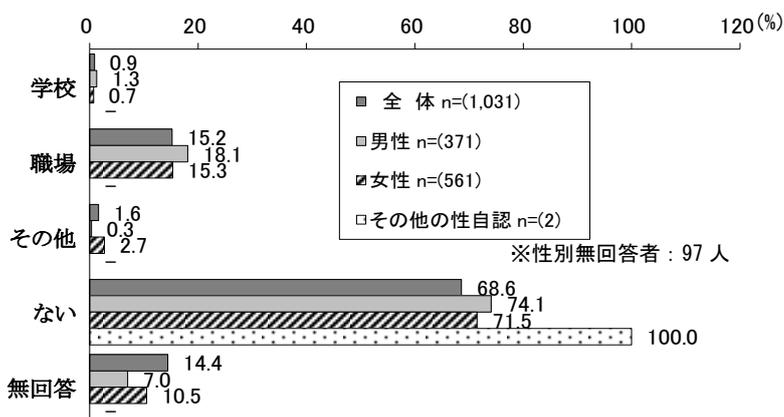
ハラスメントを受けた経験は、全体的に「ない」が大多数を占めています。

「セクシュアル・ハラスメント」は、職場において、男性より女性の方が 4.9 ポイント高くなっています。「パワー・ハラスメント」は、職場において、女性より男性の方が 2.8 ポイント高くなっています。

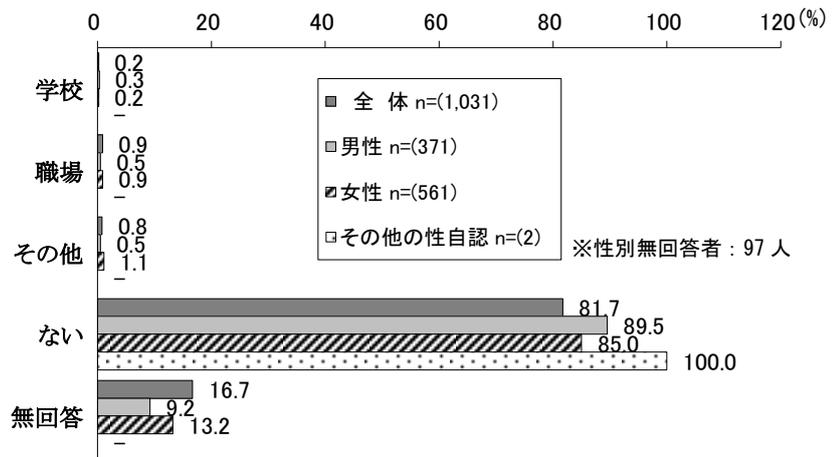
セクシュアル・ハラスメント



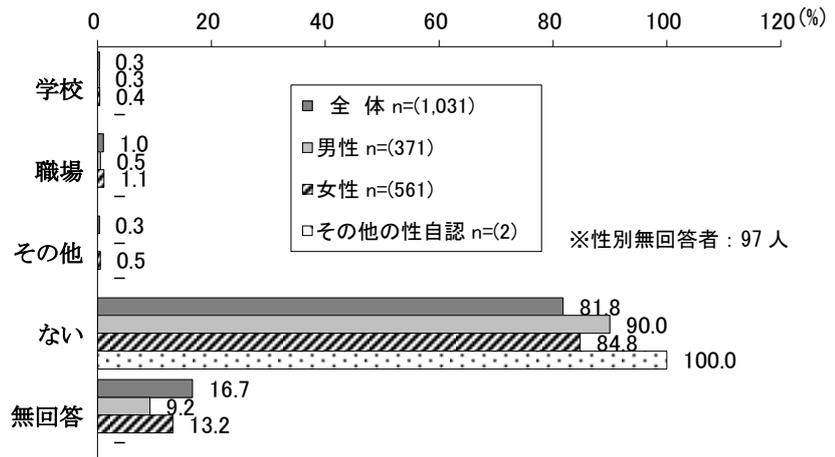
パワー・ハラスメント



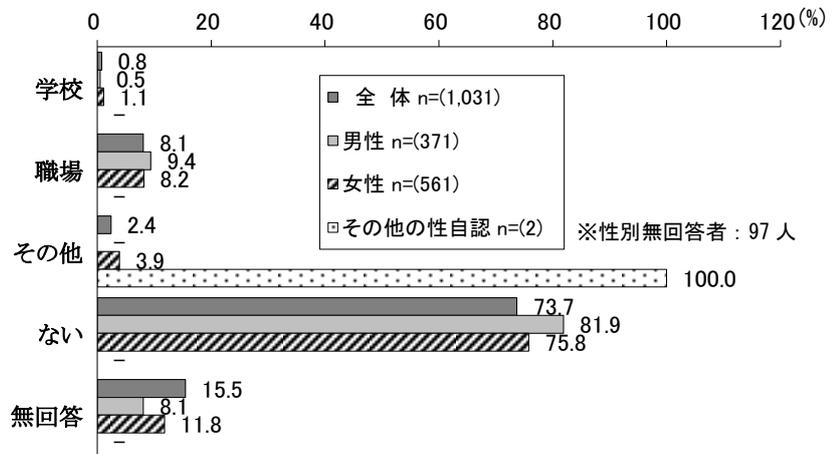
マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント



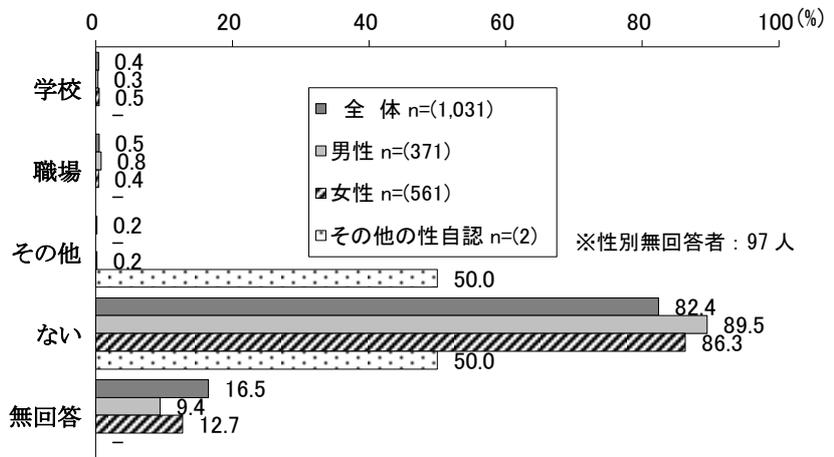
育児休業、介護休業に係るハラスメント



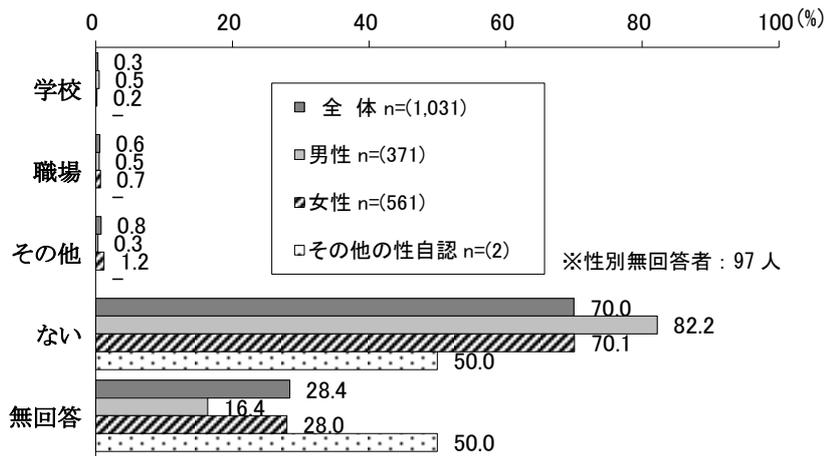
モラル・ハラスメント



SOGI（性的指向・性自認）ハラスメント

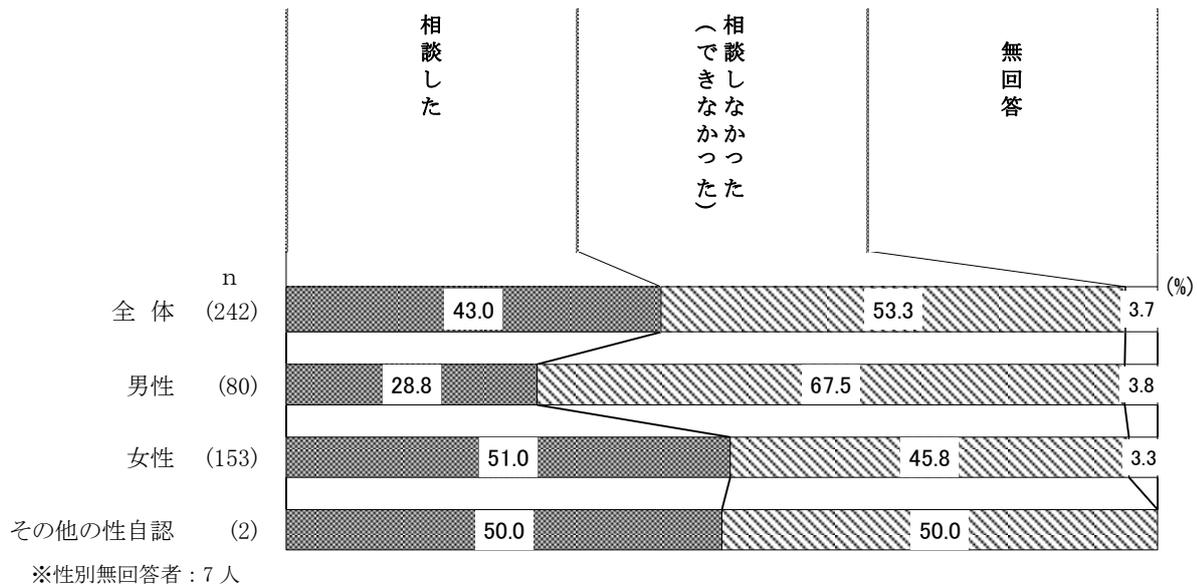


その他



■ <問 24-1> 【問 24 のいずれかのハラスメントを受けたことがある方のみご回答ください】
 あなたが受けたハラスメントについて、どなたかに相談したことはありますか。(〇は1つ)

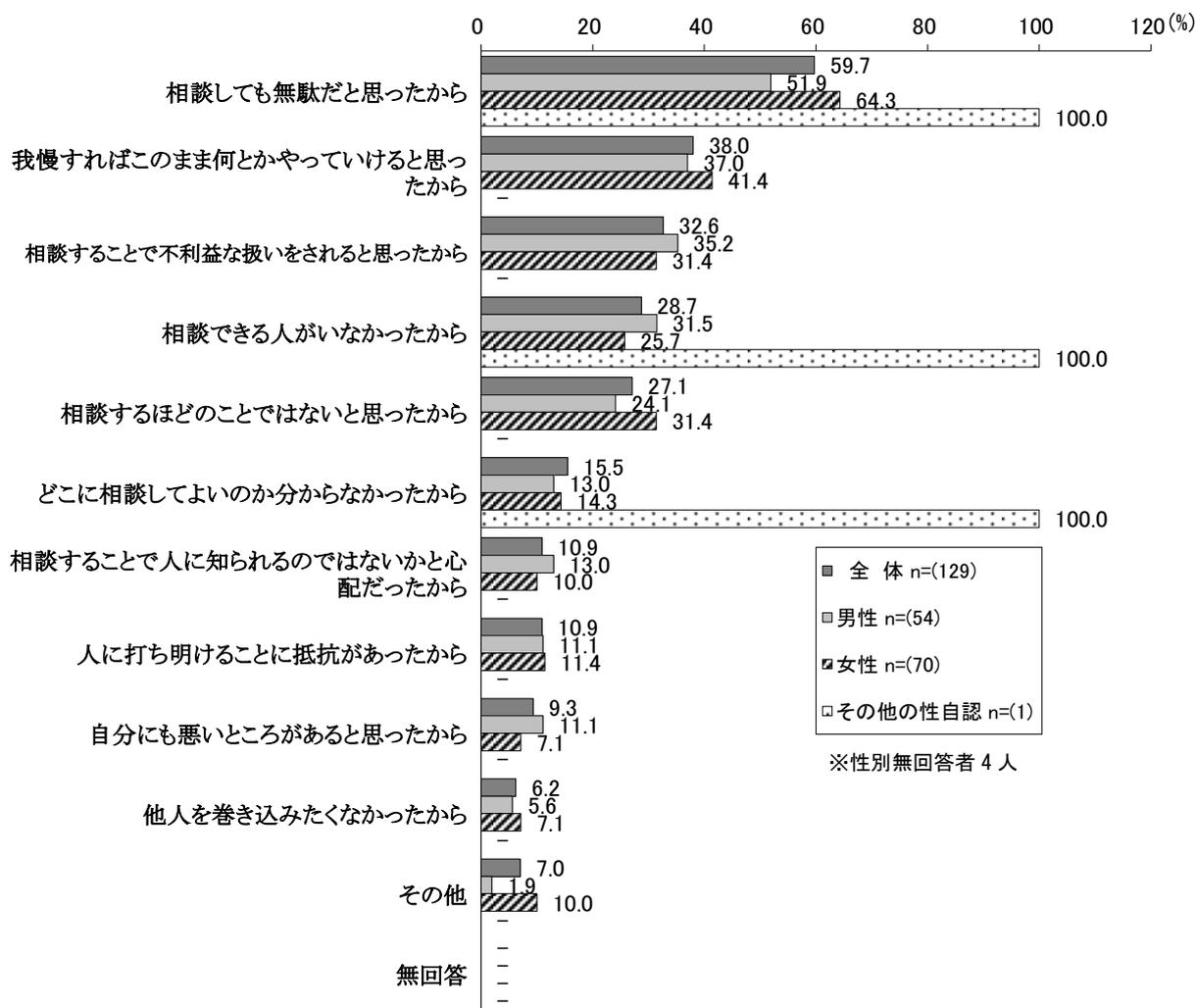
全体で見ると、「相談した」は43.0%、「相談しなかった(できなかった)」は53.3%となっています。
 性別で見ると、「相談しなかった(できなかった)」は、女性より男性の方が21.7ポイント高くなっています。



■ <問 24-3> 【問 24-1 で「2. 相談しなかった（できなかった）」と答えた方のみご回答ください】
 相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

全体でみると、「相談しても無駄だと思ったから」が 59.7%と最も高く、次いで、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」が 38.0%、「相談することで不利益な扱いをされると思ったから」が 32.6%となっています。

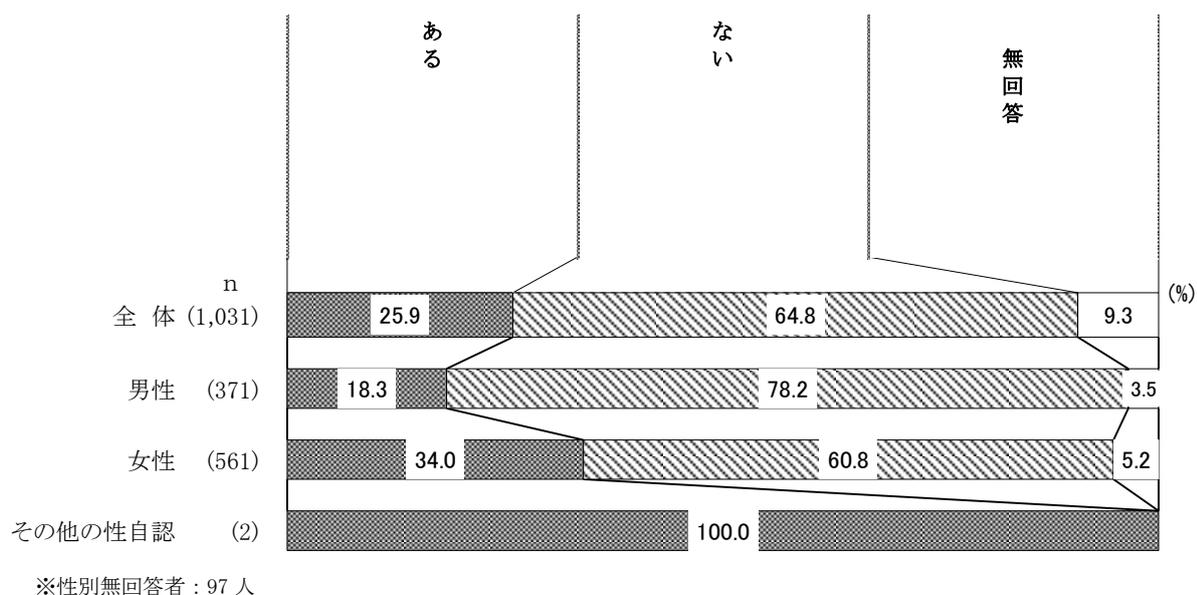
性別でみると、「相談できる人がいなかったから」は、女性より男性の方が 5.8 ポイント高くなっています。「相談しても無駄だと思ったから」は 12.4 ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」は 7.3 ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



■<問 25>あなたは、これまでの生活のなかで、「女らしくしなさい」「男はこうすべきだ」等といった性別役割（ジェンダー含む）について悩んだり、疑問を感じたり、嫌な思いをしたことや、身近な人が悩んでいる場面に遭ったことがありますか。（○は1つ）

全体でみると、「ある」は25.9%、「ない」は64.8%となっています。

性別でみると、「ある」は男性より女性の方が15.7ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 25. 性別による役割分担への疑問

	全体	ある	ない	無回答
今回調査	100.0	25.9	64.8	9.3
前回調査	100.0	22.5	74.1	3.4

■ <問 26> あなたは、次にあげる日本の社会における人権及び人権に関わる問題について、どの程度人権が尊重されていたり、支援や防止対策がなされていると思いますか。(ア～コのそれぞれについて、当てはまる「1～5」に○を1つ)

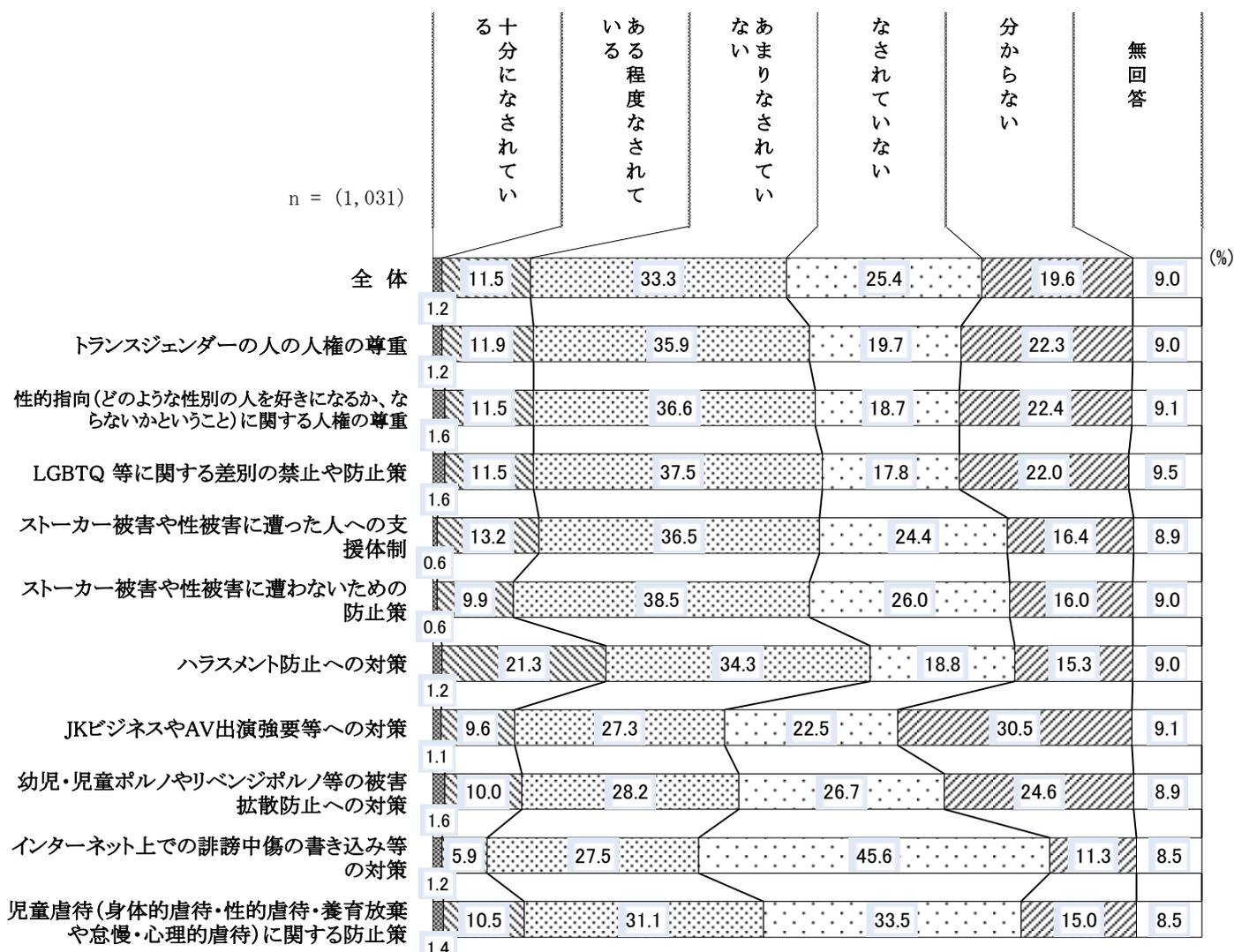
全体でみると、『なされている※1』は12.7%、『なされていない※2』は58.7%となっています。

『なされている』の中では、「ハラスメント防止への対策」が22.5%と最も高くなっています。

『なされていない』の中では、「インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」が73.1%と最も高く、次いで、「児童虐待(身体的虐待・性的虐待・養育放棄や怠慢・心理的虐待)に関する防止策」が64.6%、「ストーカー被害や性被害に遭わないための防止策」が64.5%となっています。

※1 「十分になされている」と「ある程度なされている」の合計

※2 「なされていない」と「あまりなされていない」の合計



<前回調査との比較>

「キ. JK ビジネスや AV 出演強要等への対策」、「ケ. インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」は、今回からの新規項目のため掲載なし

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「ア. トランスジェンダーの人の人権の尊重」

※

	全体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.2	11.9	35.9	19.7	22.3	9.0
前回調査	100.0	1.8	17.6	37.9	16.4	22.3	3.9

※ 前回調査時：性同一性障害に関する人権の尊重

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「イ. 性的指向に関する人権の尊重」

	全体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	11.5	36.6	18.7	22.4	9.1
前回調査	100.0	1.7	15.4	35.5	20.9	22.2	4.4

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「ウ. LGBTQ 等に関する差別の禁止や防止策」

	全体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	11.5	37.5	17.8	22.0	9.5
前回調査	100.0	1.2	10.9	34.4	20.3	28.3	5.0

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方

「エ. ストーカー被害や性被害に遭った人への支援体制」

	全体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.6	13.2	36.5	24.4	16.4	8.9
前回調査	100.0	0.4	12.3	40.0	25.3	17.5	4.6

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方

「オ. ストーカー被害や性被害に遭わないための防止策」

	全体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	0.6	9.9	38.5	26.0	16.0	9.0
前回調査	100.0	0.2	11.3	40.8	27.0	16.2	4.5

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「カ. ハラスメント防止への対策」※

	全 体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.2	21.3	34.3	18.8	15.3	9.0
前回調査	100.0	0.8	10.5	41.3	20.2	22.6	4.6

※前回調査時：マタニティ・ハラスメント防止への対策

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方

「ク. 幼児・児童ポルノやリベンジポルノ等のメディアによる被害拡散防止への対策」

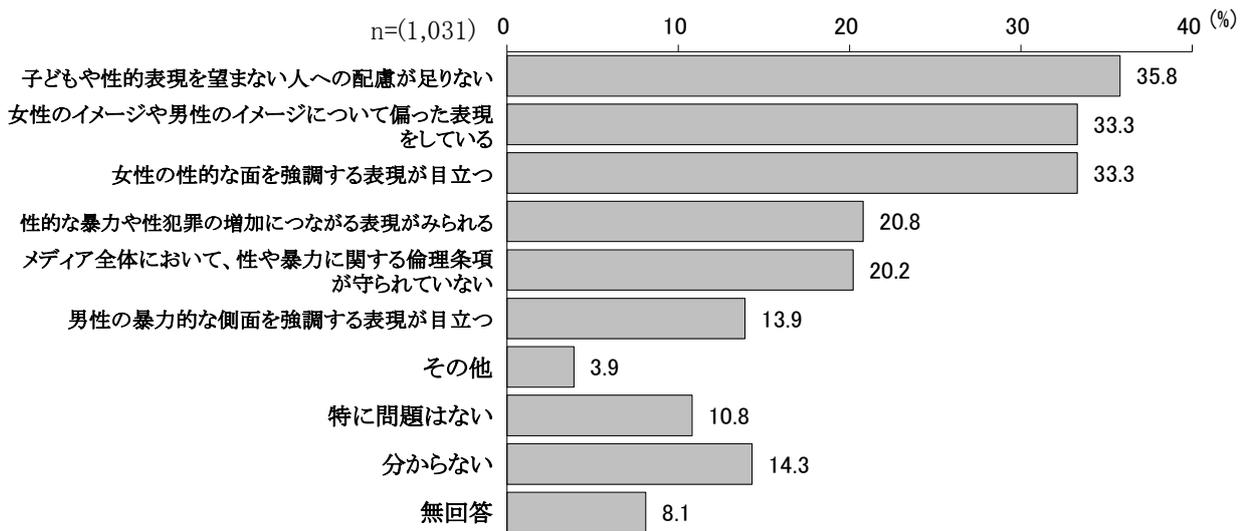
	全 体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.6	10.0	28.2	26.7	24.6	8.9
前回調査	100.0	1.1	12.5	32.5	31.0	18.6	4.4

問 26. 社会における人権問題の対応状況についての考え方「コ. 児童虐待に関する防止策」

	全 体	十分になさ れている	ある程度な されている	あまりなさ れていない	なされてい ない	分からない	無回答
今回調査	100.0	1.4	10.5	31.1	33.5	15.0	8.5
前回調査	100.0	0.8	13.4	34.5	31.0	16.2	4.1

■ <問 27> テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、広告などのメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。(〇はいくつでも)

「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が 35.8%と最も高く、次いで、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」と「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」が 33.3%となっています。



<前回調査との比較>

問 27. メディアにおける性・暴力表現についての考え方

	全体	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	女性の性的な面を強調する表現が目立つ	男性の暴力的な側面を強調する表現が目立つ ※	性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる	子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない	メディア全体において、性や暴力に関する倫理条項が守られていない	その他
今回調査	100.0	33.3	33.3	13.9	20.8	35.8	20.2	3.9
前回調査	100.0	20.6	28.1	-	29.9	39.8	22.7	5.6

	特に問題はない	分からない	無回答
今回調査	10.8	14.3	8.1
前回調査	11.0	14.4	4.1

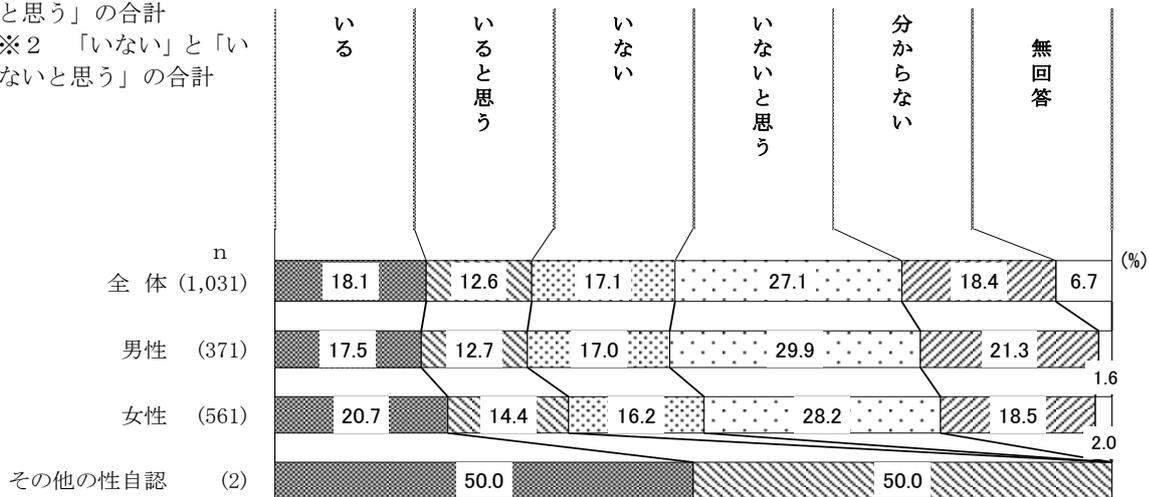
※ 今回調査からの追加項目

11 性の多様性について

■ <問 28> あなたは、身近な人（職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人）にLGBTQ等の人はいますか。（○は1つ）

全体で見ると、『いる※1』は30.7%、『いない※2』は44.2%となっています。
性別で見ると、『いる』は、男性より女性の方が4.9ポイント高くなっています。

※1 「いる」と「いる
と思う」の合計
※2 「いない」と「い
ないと思う」の合計

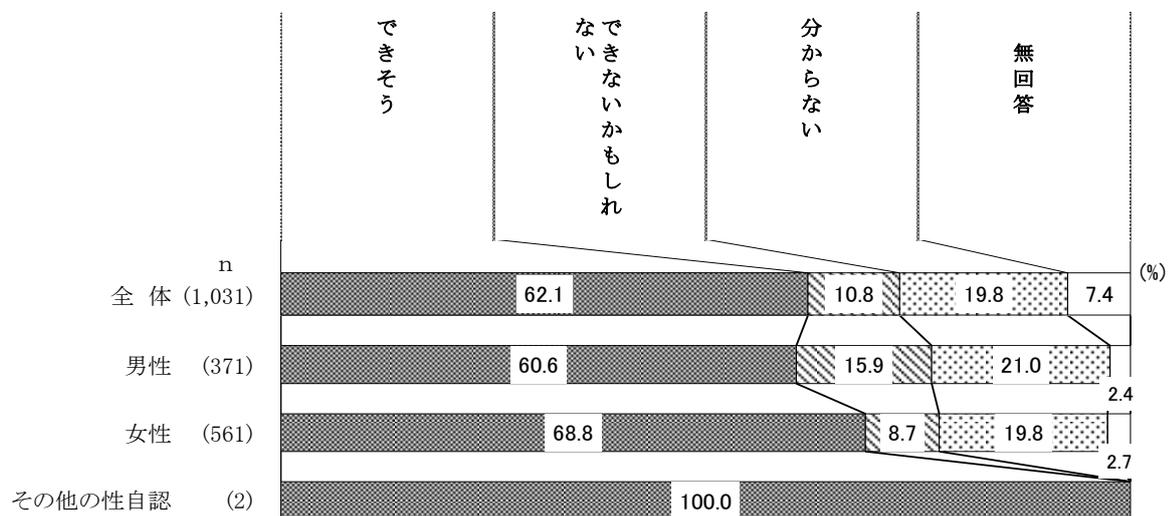


※性別無回答者：97人

■ <問 29> あなたは、身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。

全体で見ると、「できそう」は62.1%、「できないかもしれない」は10.8%、「分からない」が19.8%となっています。

性別で見ると、「できないかもしれない」と「分からない」の合計は、女性より男性の方が8.4ポイント高くなっています。

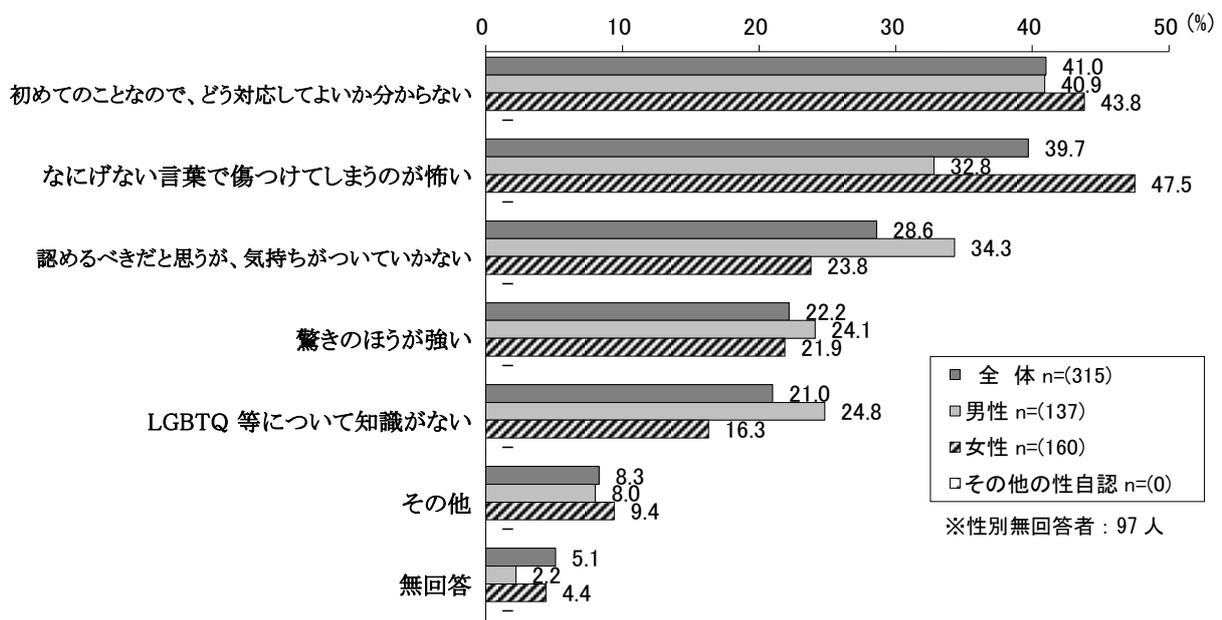


※性別無回答者：97人

<問 29-1> 【問 29 で「2. できないかもしれない」「3. 分からない」と答えた方のみご回答ください】それはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「初めてのことなので、どう対応してよいか分からない」が 41.0%と最も高く、次いで、「なにげないことばで傷つけてしまうのが怖い」が 39.7%、「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない」が 28.6%となっています。

性別でみると、「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない」は 10.5 ポイント、「LGBTQ 等について知識がない」は 8.5 ポイント、女性より男性の方が高くなっています。「なにげないことばで傷つけてしまうのが怖い」は、男性より女性の方が 14.7 ポイント高くなっています。



12 暴力の防止について

まとめ

一番多いDV被害経験、加害経験はともに心理的攻撃となっています。被害を受けた際の相談先の多数は、周りにいる友人や親族であり、公的な相談機関の利用は少ない状況です。認知度についても、公的機関を知らない層は2割半ばとなり、警察以外の相談機関の認知度も低いことから、一層の周知が必要です。

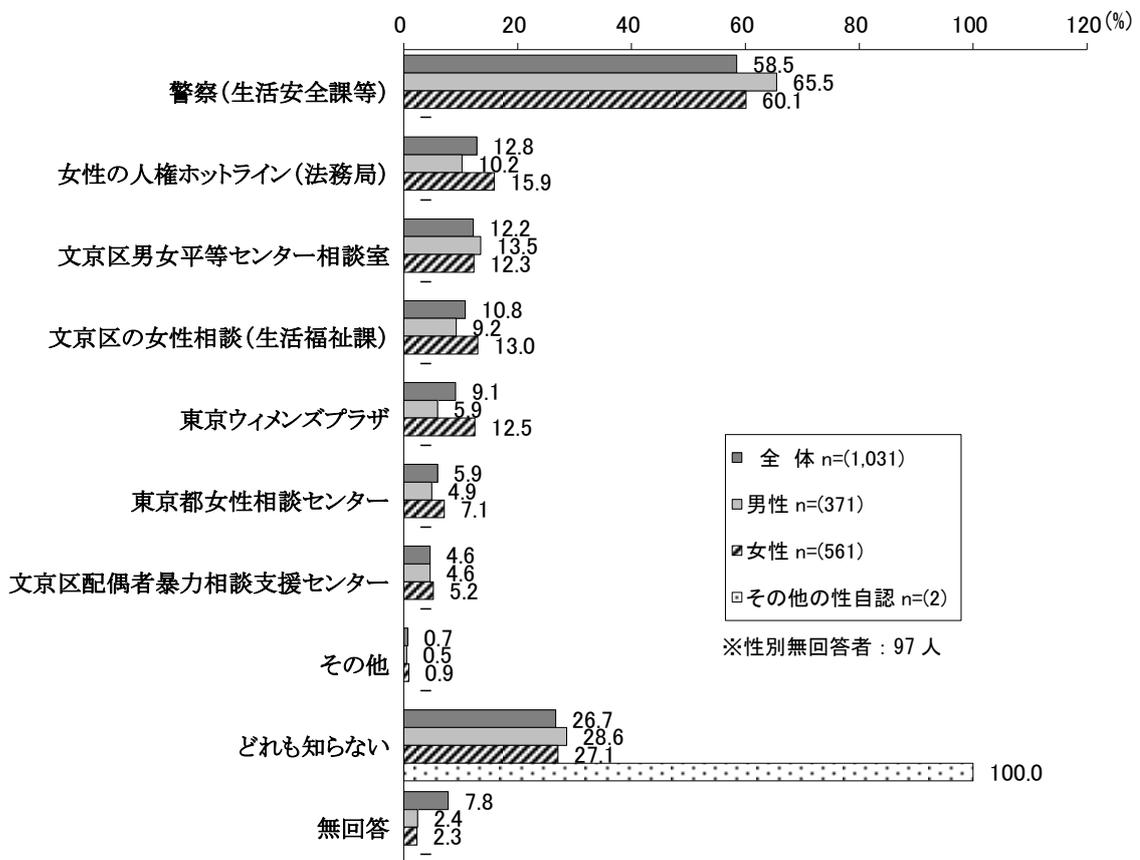
また、被害を受けた際、相談をしたくてもできない、相談をする必要がないと答える層が全体の約6割を占めることから、相談をしやすい環境の整備・強化が重要となっています。

■ <問 30> 配偶者・パートナー又は交際相手などからの暴力についての公的な相談機関として、知っているものはありますか。

全体で見ると「警察（生活安全課等）」が58.5%と最も高く、次いで、「女性の人権ホットライン（法務局）」が12.8%、「文京区男女平等センター相談室」が12.2%となっています。

一方、「どれも知らない」は26.7%となっています。

性別で見ると、「警察（生活安全課等）」は、女性より男性の方が5.4ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 30. 認知している公的なDV相談機関

	全体	文京区の女性相談（生活福祉課）	文京区男女平等センター相談室	文京区配偶者暴力相談支援センター ※	警察（生活安全課等）	東京都女性相談センター	東京ウィメンズプラザ	女性の人権ホットライン（法務局）
今回調査	100.0	10.8	12.2	4.6	58.5	5.9	9.1	12.8
前回調査	100.0	17.4	15.2	-	67.6	8.7	9.2	12.8

	その他	どれも知らない	無回答
今回調査	0.7	26.7	7.8
前回調査	0.5	20.8	4.6

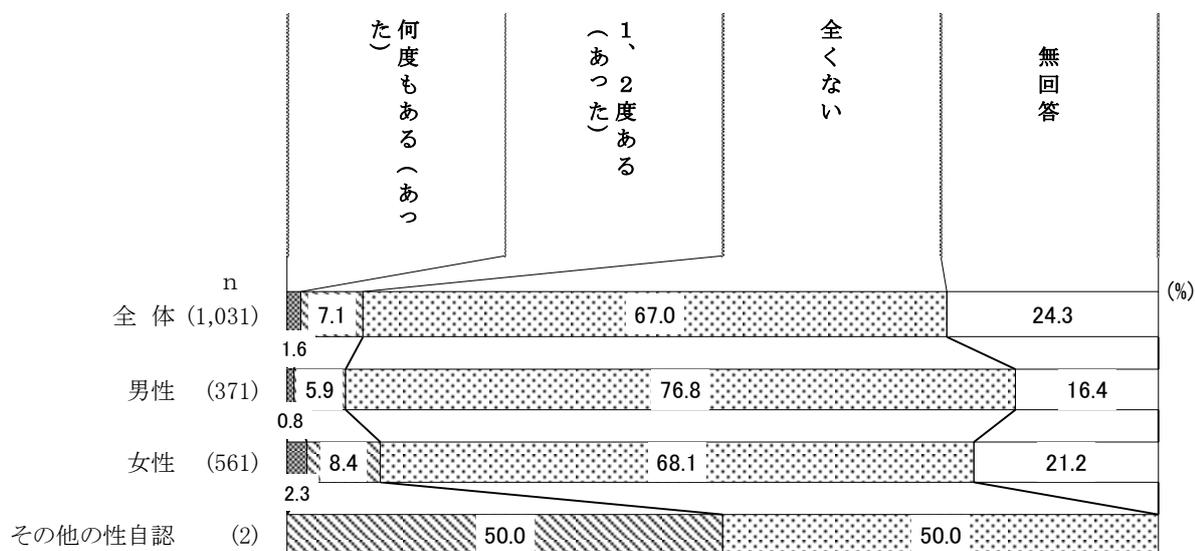
※ 今回調査からの追加項目

■ <問 31> あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手などとの間で、次のような行為を受けたり、行為をしたことがありますか。(ア～エのそれぞれについて、当てはまる「1～3」と「4～6」に○を1つずつ)

各項目を通して、行為を受けた経験については女性が高くなり、行為をした経験については男性が高くなる傾向となりました。

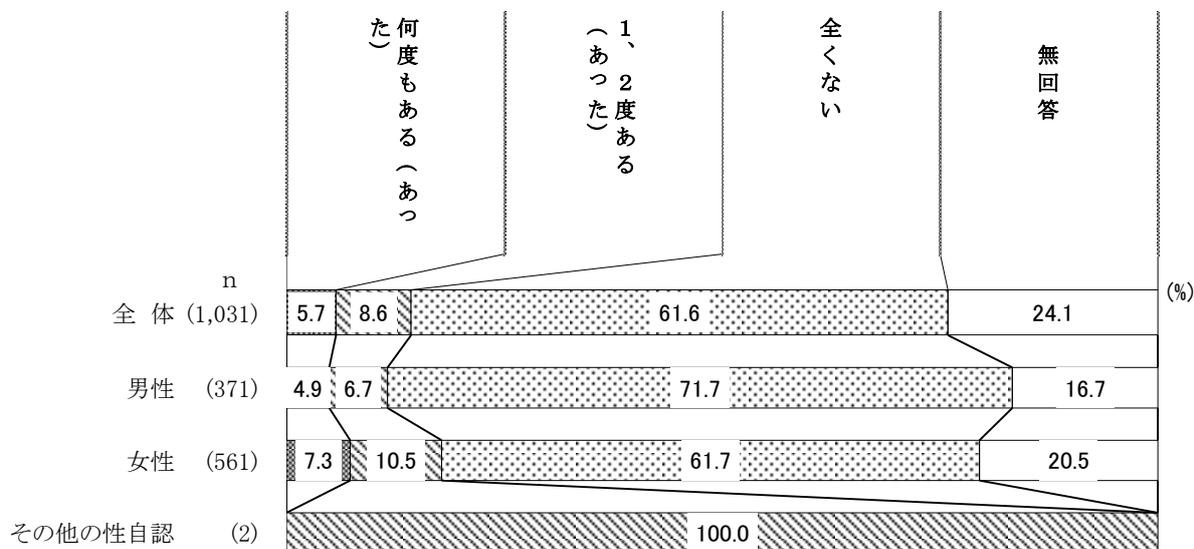
1. 行為を受けた

ア. 身体的暴行を受けた



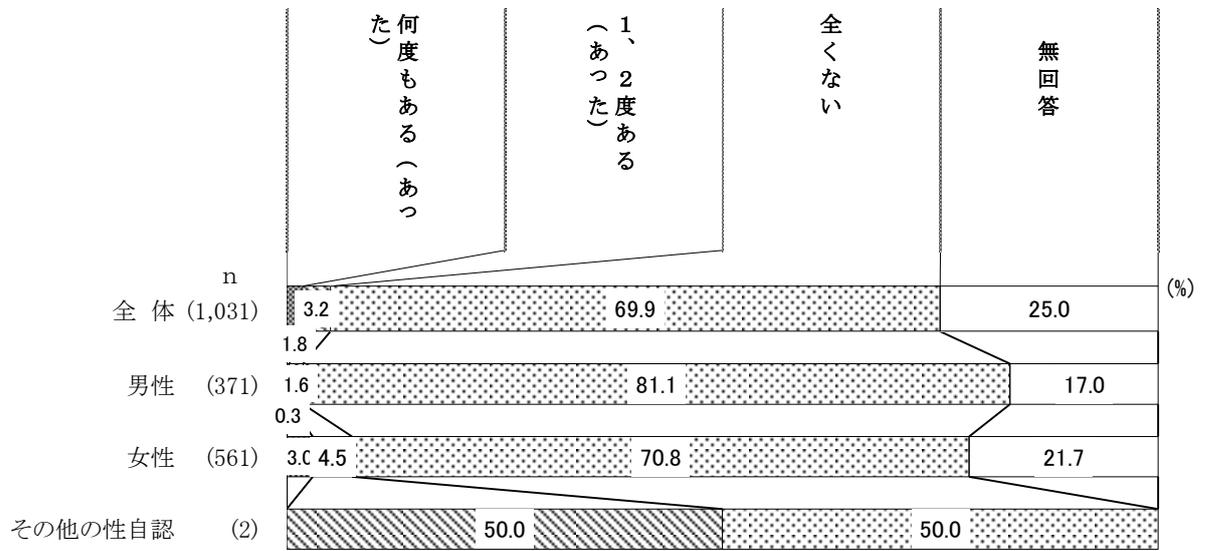
※性別無回答者：97人

イ. 心理的攻撃を受けた



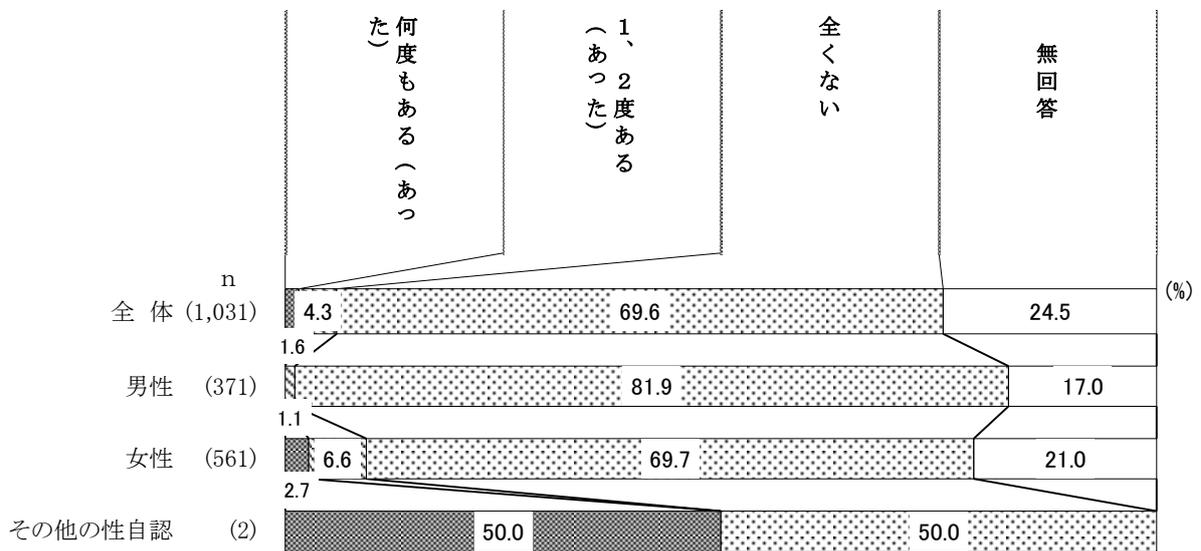
※性別無回答者：97人

ウ. 経済的圧迫を受けた



※性別無回答者：97人

エ. 性的強要を受けた



※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「ア. 身体的暴行」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	1.6	7.1	67.0	24.3
前回調査	100.0	3.3	8.6	73.3	14.8

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「イ. 心理的攻撃」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	5.7	8.6	61.6	24.1
前回調査	100.0	6.0	8.7	70.6	14.7

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「ウ. 経済的圧迫」

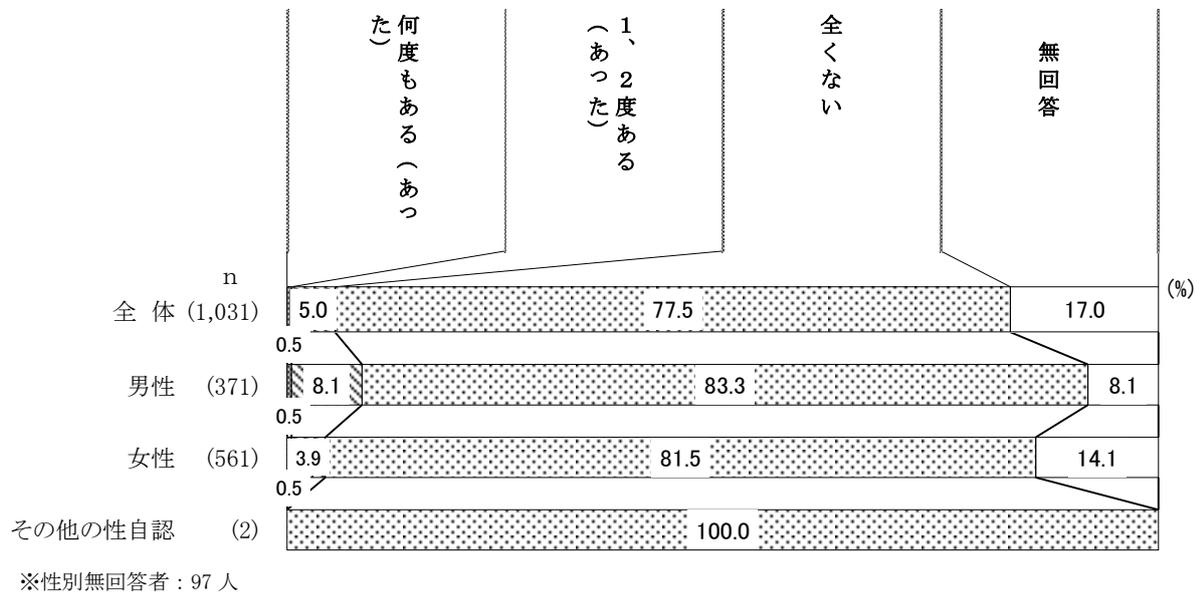
	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	1.8	3.2	69.9	25.0
前回調査	100.0	2.4	3.5	79.2	14.9

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等から被害を受けた経験「エ. 性的強要」

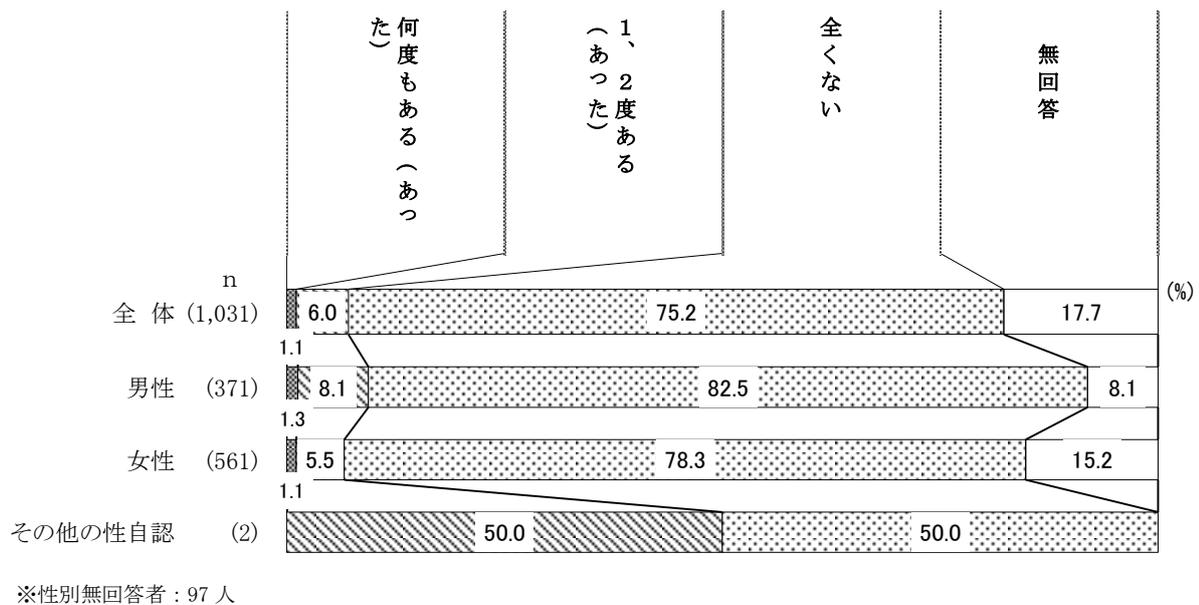
	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	1.6	4.3	69.6	24.5
前回調査	100.0	1.8	4.1	78.8	15.2

2. 行為をした

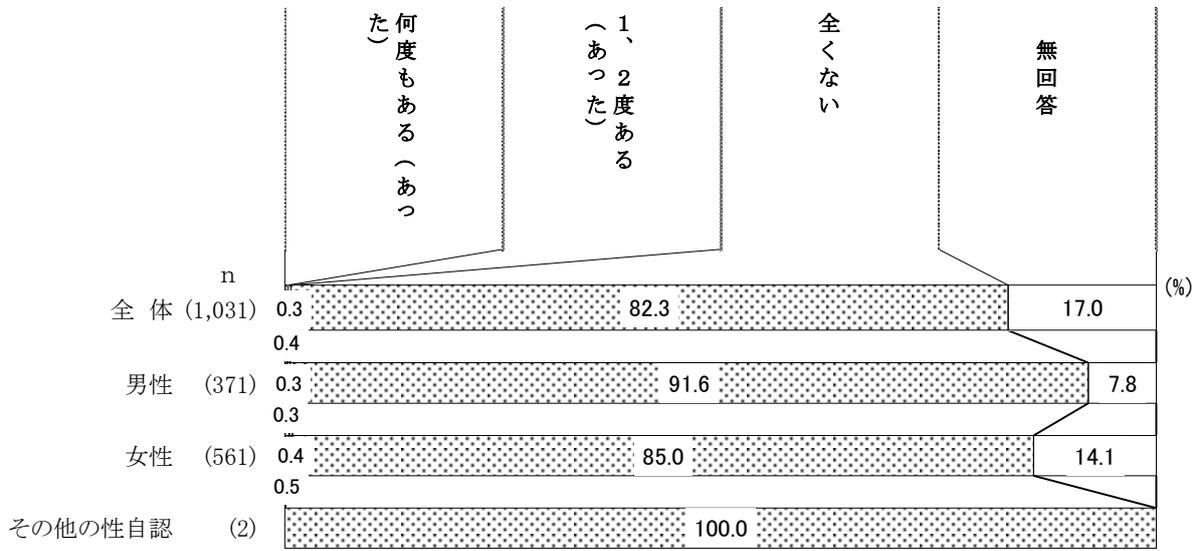
ア. 身体的暴行をした



イ. 心理的攻撃をした

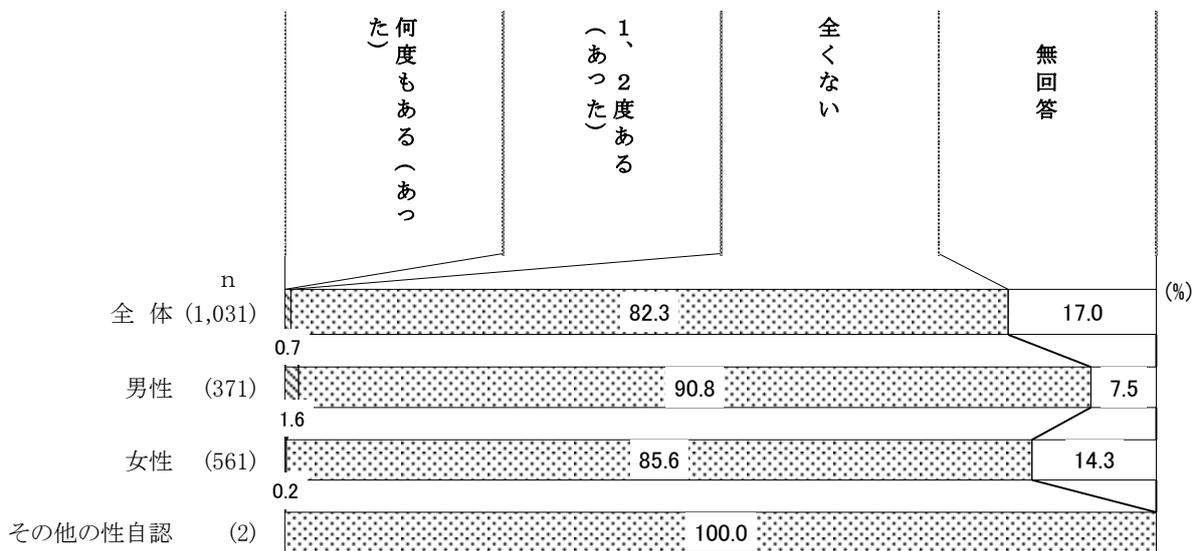


ウ. 経済的圧迫をした



※性別無回答者：97人

エ. 性的強要をした



※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「ア. 身体的暴行」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	0.5	5.0	77.5	17.0
前回調査	100.0	0.8	7.4	72.0	19.7

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「イ. 心理的攻撃」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	1.1	6.0	75.2	17.7
前回調査	100.0	1.4	5.4	72.7	20.4

問 31. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「ウ. 経済的圧迫」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	0.4	0.3	82.3	17.0
前回調査	100.0	0.4	0.9	78.1	20.6

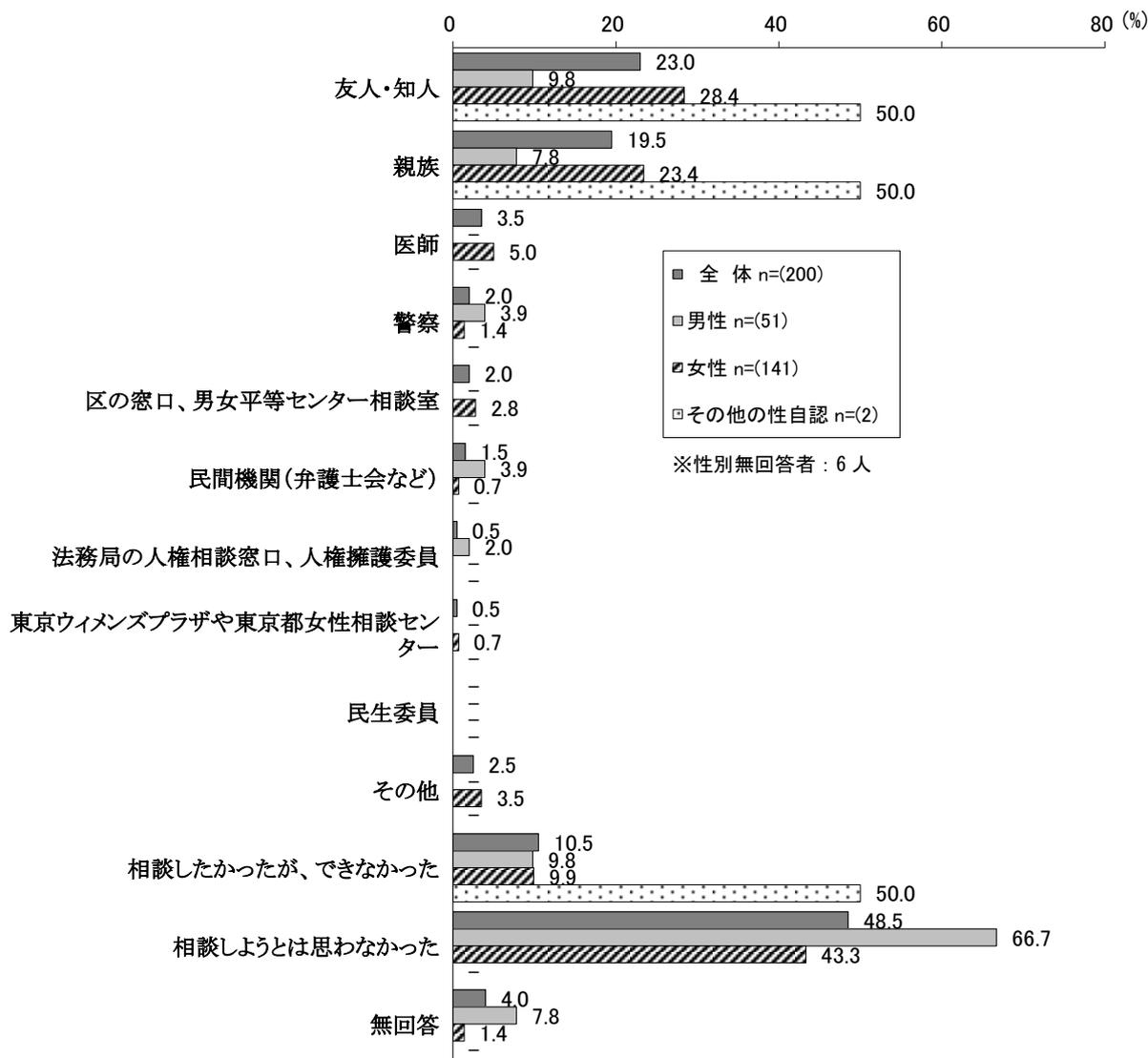
問 31. 配偶者・パートナー、恋人等への加害経験「エ. 性的強要」

	全体	何度もある (あった)	1、2度ある (あった)	全くない	無回答
今回調査	100.0	-	0.7	82.3	17.0
前回調査	100.0	0.1	0.8	78.8	20.2

■ <問 31-1> 【問 31 のいずれかの行為を配偶者などから受けたことがある方のみご回答ください】
 あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。(〇はいくつでも)

全体で見ると、「友人・知人」が 23.0%と最も高く、次いで、「親族」が 19.5%となっています。
 一方、「相談しようと思わなかった」が 48.5%と最も高く、「相談したかったが、できなかった」は 10.5%となっています。

性別で見ると、「相談しようと思わなかった」は、女性より男性の方が 23.4 ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 31-1. 相談した相手（場所）

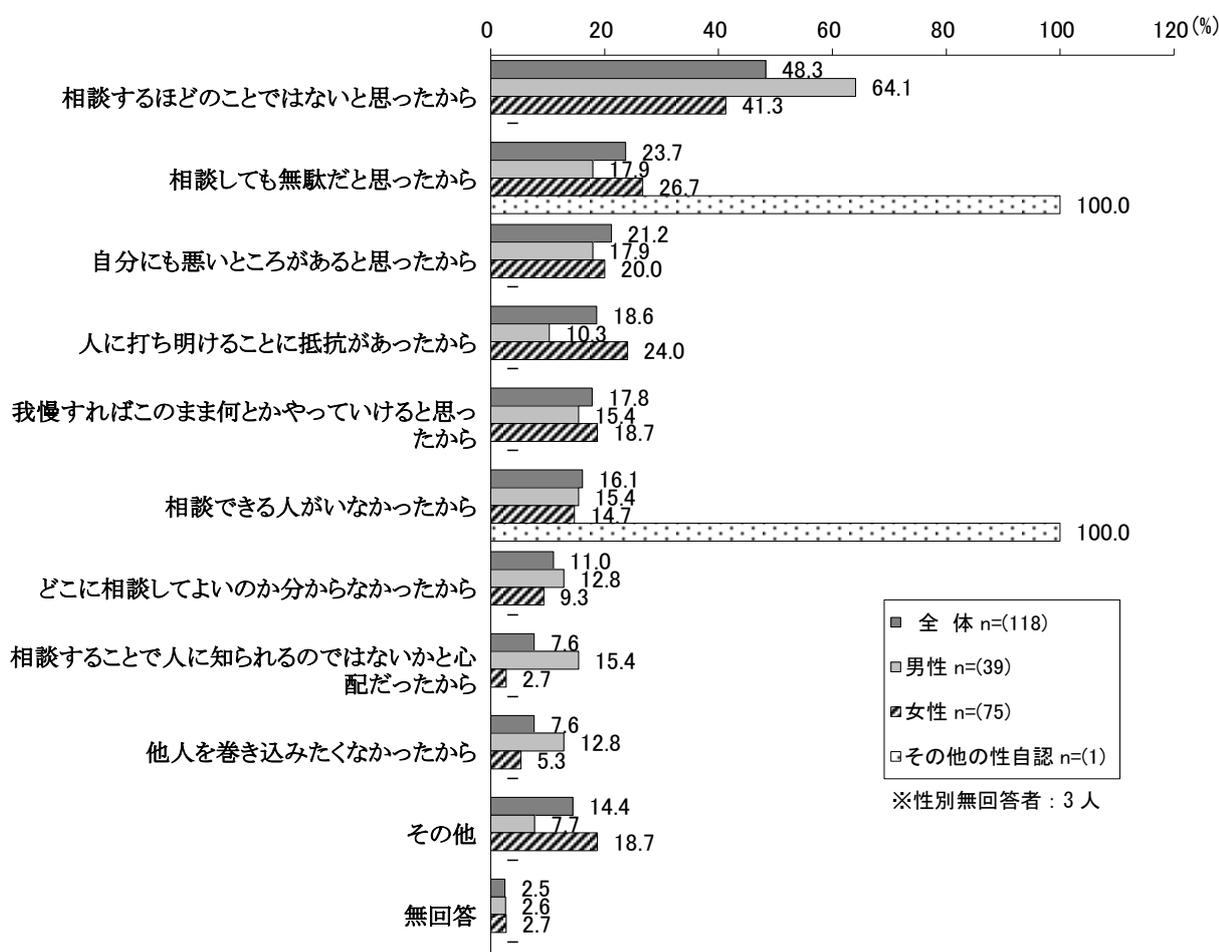
	全体	警察	法務局の人 権相談窓 口、人権擁 護委員	東京ウイメン ズプラザや東 京都女性相談 センター	区の窓口、 男女平等セ ンター相談 室	民生委員	民間機関 （弁護士会 など）	医師
今回調査	100.0	2.0	0.5	0.5	2.0	-	1.5	3.5
前回調査	100.0	6.0	0.5	1.6	2.2	0.5	3.8	6.0

	親族	友人・知人	その他	相談したか ったが、で きなかつた	相談しよう とは思わな かつた	無回答
今回調査	19.5	23.0	2.5	10.5	48.5	4.0
前回調査	23.6	30.8	3.3	7.1	38.5	4.4

■ <問 31-2> 【暴力の被害を相談できなかった、しなかった方（問 31-1 で 11 又は 12 を選んだ方）のみご回答ください】相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

全体でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」が 48.3%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 23.7%、「自分にも悪いところがあると思ったから」は 21.2%となっています。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は 22.8 ポイント、「相談することで人に知られるのではないかと心配だったから」は 12.7 ポイント、女性より男性の方が高くなっています。「人に打ち明けることに抵抗があったから」は、男性より女性の方が 13.7 ポイント高くなっています。



<前回調査との比較>

問 31-2. 相談しなかった理由

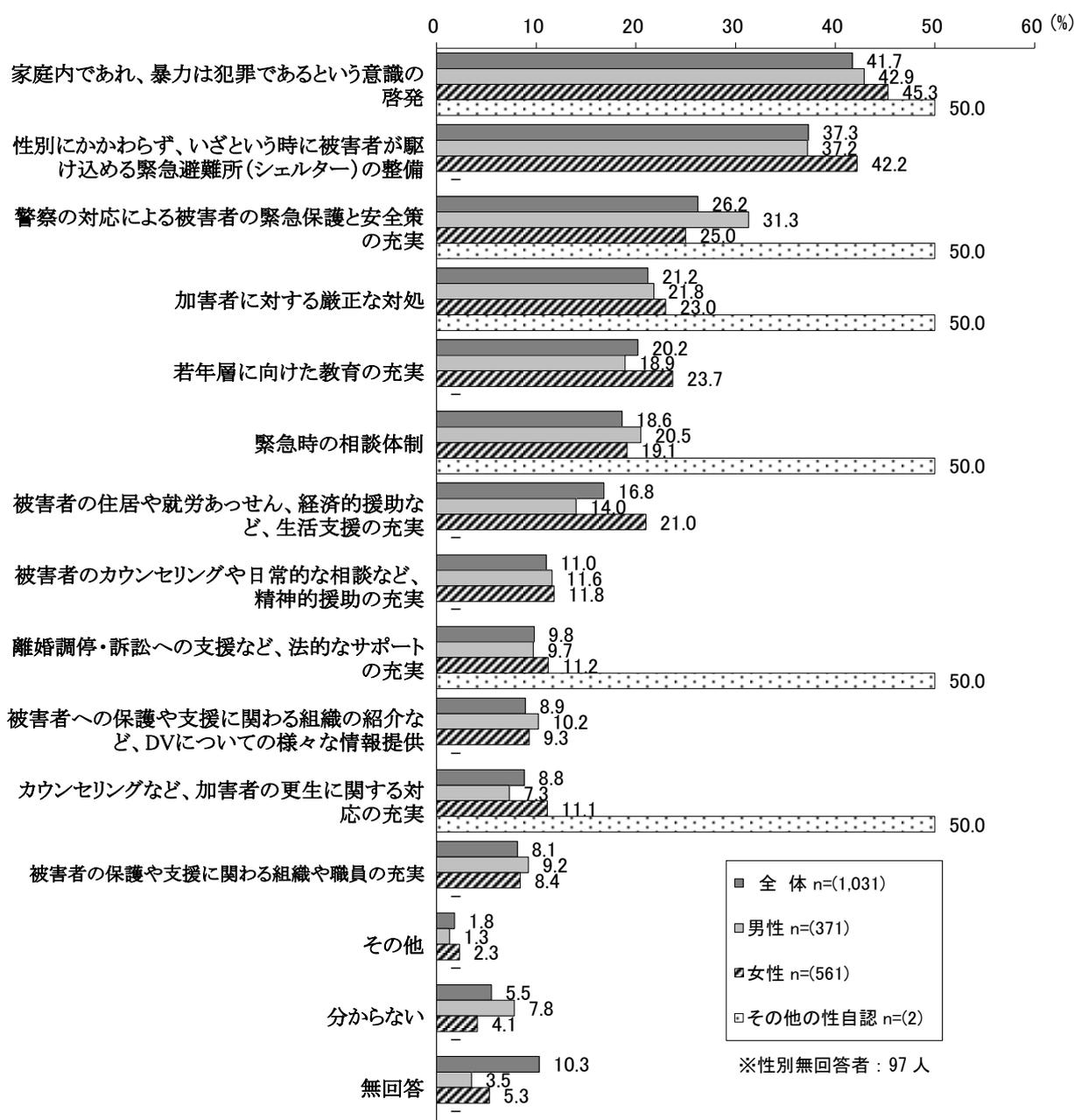
	全体	相談できる人がいなかったから	どこに相談してよいか分からなかったから	相談することで人に知られるのではないかと心配だったから	人に打ち明けることに抵抗があったから	相談しても無駄だと思ったから	我慢すればそのまま何とかやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから
今回調査	100.0	16.1	11.0	7.6	18.6	23.7	17.8	21.2
前回調査	100.0	8.4	10.8	10.8	25.3	38.6	26.5	25.3

	他人を巻き込みたくなかったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
今回調査	7.6	48.3	14.4	2.5
前回調査	8.4	48.2	6.0	1.2

■ <問 33> あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力防止及び被害者支援のためにどのようなことを充実すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体でみると、「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」が41.7%と最も高く、次いで、「性別にかかわらず、いざというときに被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備」が37.3%、「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」が26.2%となっています。

性別でみると、「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は、女性より男性の方が6.3ポイント高くなっています。「被害者の住居や就労のあっせん、経済的援助など、生活支援の充実」は7.0ポイント、「性別にかかわらず、いざというときに被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備」は5.0ポイント、男性より女性の方が高くなっています。



<前回調査との比較>

問 33. DVに対する対策や援助として特に充実させる必要があるもの

	全体	家庭内であ れ、暴力は犯 罪であるとい う意識の啓発	若年層に向け た教育の充実	被害者への保 護や支援に関 わる組織の紹 介など、DVに ついての様々 な情報提供	性別にかかわ らず、いざと いう時に被害 者が駆け込め る緊急避難所 の整備	警察の対応に よる被害者の 緊急保護と安 全策の充実	緊急時の相談 体制	被害者の住居 や就労あっせ ん、経済的援 助など、生活 支援の充実
今回調査	100.0	41.7	20.2	8.9	37.3	26.2	18.6	16.8
前回調査	100.0	50.0	22.6	12.6	35.5	31.1	15.6	12.8

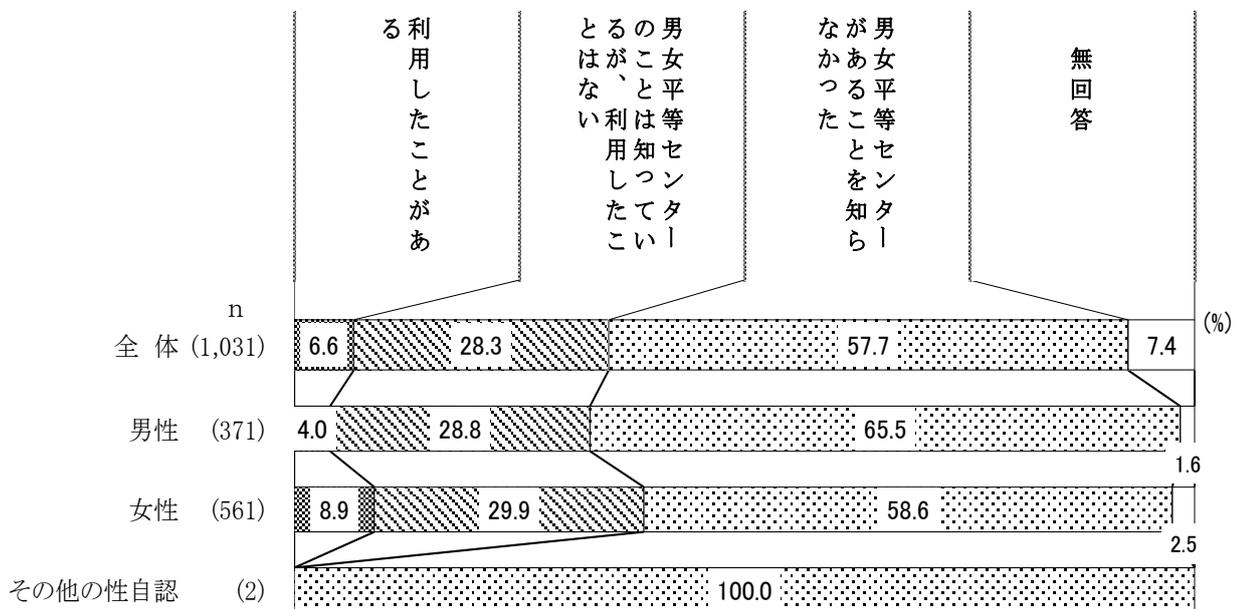
	被害者のカウ ンセリングや 日常的な相談 など、精神的 援助の充実	被害者の保護 や支援に関わ る組織や職員 の充実	離婚調停・訴 訟への支援な ど、法的なサ ポートの充実	加害者に対す る厳正な対処	カウンセリングなど、加害 者の更生に関 する対応の充 実	その他	分からない	無回答
今回調査	11.0	8.1	9.8	21.2	8.8	1.8	5.5	10.3
前回調査	9.9	8.2	9.7	22.7	8.0	1.5	4.7	8.4

13 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて

■ <問 34> 文京区には、男女平等参画推進のための拠点施設として「文京区男女平等センター」(所在地：文京区本郷四丁目)があります。あなたは、文京区男女平等センターを利用したことがありますか。(○は1つ)

全体でみると、「利用したことがある」は6.6%、「男女平等センターのことは知っているが、利用したことはない」は28.3%、「男女平等センターがあることを知らなかった」が57.7%となっています。

性別でみると、「男女平等センターがあることを知らなかった」は、女性より男性の方が6.9ポイント高くなっています。



※性別無回答者：97人

<前回調査との比較>

問 34. 男女平等センターの利用経験

	全体	利用したことがある	男女平等センターのことは知っているが、利用したことはない	男女平等センターがあることを知らなかった	無回答
今回調査	100.0	6.6	28.3	57.7	7.4
前回調査	100.0	9.6	31.4	55.8	3.2

■ <問 35> あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、文京区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で見ると、「学校における男女平等教育の推進」が34.4%と最も高く、次いで、子育て・育児に関する支援充実」が31.5%、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」が30.4%となっています。

性別で見ると、「女性の自立に向けた就業教育・訓練に関する情報の提供」は7.0ポイント、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」は6.5ポイント、男性より女性の方が高くなっています。

